



中央大学

学員会千葉県支部

会報

創刊号 二〇一三年四月



中央大学学員会 千葉県支部 会報 創刊号

表紙・千葉神社 猪俣正栄（法学部・昭和36年卒業）・画（その他挿絵すべて）

作者プロフィール ◎日航定年後、請われて内外の関連会社に15年勤務。仕事の余暇に趣味の絵画（油彩、水彩、中国画）を勉強し公募展で各賞を受賞。（無所属）今は、ボランティアで水彩画二教室とスケッチ会で楽しみながら教えている。

写真で見る千葉県支部の活動



2013年新年会（2月9日。ラ・セーヌブランシュ）



2012年忘年会（12月8日。ラ・セーヌブランシュ）



2006年の旅行（9月22日。鴨川グランドホテル）
本多利夫市長（当時）を囲んで鈴木政夫氏のホテルで開催。

千葉県支部では、新年会、忘年会、そして定期総会を毎年開催するとともに、旅行会や箱根駅伝の応援など、さまざまな活動で、会員の親睦をはかっている。



2005年10月のホームカミングデーでの阿部三郎先生
吉田支部長、後地幹事長、木村清会員の尽力により
大学構内初の「大間のまぐろ解体ショー」が実現した



北総白門会。短距離地对空誘導発射装置前にて（2005年10月29日）

千葉県支部会報の発刊にあたり

中央大学学員会 千葉県支部 支部長 吉田 卓

かつての隆盛を取り戻そう

会員の皆様、ご関係の皆様、平素は当会・中央大学学員会千葉県支部の活動に格別のご理解、ご支援を賜りまことにありがとうございます。

現在、支部長を務めている吉田卓です。本会会報の発行にあたり、本会に対する私なりの考えを以下にまとめました。

千葉県支部は、東京法学院院友会（中央大学の前身・英吉利法律学校の後身の校友会）名簿によれば、明治二十九年に発足しています。現在、会員は約三、〇〇〇名で、その歴史からも、また会員数からも、学員会の有力支部の一つで

す。歴代支部長（会長）には、戦後、記録が残っている方々からでも、大野三郎さん（昭和二八年～）、坂井改造さん（三〇年～）、笹田登さん（三二年～）、内山誠一さん（四〇年～）、小川徳次郎さん（五七年～）、鈴木嘉重さん（平成四年～）、石村起一さん（七年～）、斉藤彦伍さん（一四年～）といった立派な方々が務めておられました。

私は、平成一七年に支部長を拝命しました。当初は、とてもそのような方々の後を継げるような者ではないと辞退しましたが、周囲に強く





千葉公園

薦められ、また、長年お世話になった千葉県支部に少しでもお役に立てるならばとお引き受けしました。

近年、地域支部の求心力はやや低下の傾向にあり、わが千葉県支部においても、総会の出席者が一〇〇名程度と、最盛期の数分の一となっています。こうした傾向をなんとか改善したい、かつての隆盛を取り戻したいと、幹事の皆さんとともにさまざまに取り組んでいます。この会報の発行も、そのような考えから行うものです。

十数年前は、千葉県支部の総会には数百人が集いました。多くの方がご存知のように、それは水島廣雄先生のお力によるものです。昭和四二年に千葉そごうを開店された水島先生は、それを機会に、千葉県の中央大学同窓生の結集を図ろうと、支部の支援を買って出てくださいました。当時の千葉県支部は、今よりもっと停滞した状態にあったのです。

水島先生は、総会の懇親会にそごうの食堂を提供するばかりか、参加者へのお土産の手配までされました。いわば、「そごう・水島先生の丸抱え」です。食事が出て、お土産までつくわけですから、人は集まります。大勢の人が集まれば、そこでまた新しい人間関係ができます。趣味の仲間もでき、商売のつながりもできる。

そのような会であれば、また人が集まる。そんな好循環で、千葉県支部にはどんどん人が集まり、総会も年々盛会になったわけです。

そのような支援を、水島先生は長い間行ってくれました。しかし、残念な事件があり、水島先生がそごうの経営から離れた後は、そのような形をとることができなくなり、集まる人も少なくなりました。

けれども、現在でもなお、一〇〇名余の方々がお金を払って参加し、幹事がその準備を手弁当で行っています。こうした方々を軸に、再び、数百名規模の総会を開催できる会にしていきたいというのが、私と現在の幹事の目標です。

千葉県の中央大学同窓生の結集を

かつての水島先生の存在のように、同窓会組織を一人の個人や一つの会社が丸抱えするというのは、現在はなかなか難しいかもしれません。しかし、それをただ「時代が変わった」という言葉だけで片付けてしまうのもいかなものかと私は思います。

借りたものは返すのは当然です。それはお金の貸し借りばかりでなく、人は生きていく上で、さまざまな人々との出会いがあり、そこで



美浜園

は様々な恩義が生じます。恩を受けたら返す、義理を受ければ返す……ということは、人として当然のことです。大学での出会いも、卒業後の出会いもまた同じで、そういう場に参加し、何らかの恩恵を受けることができたのなら、自分のできる範囲で返していくことが大切です。

世の中には、自分が得ることばかり考えるところにもいるようですが、この千葉県支部の集まりだけは、そのような人ではなく、気持ちの良い仲間が集まる場でありたいと思います。

誰かが隆盛だとそれにただぶらさがり、潮目が変わると見向きもしないような人の集まりになつてはいけません。

以前、私は他の地域支部で、同窓の政権党の議員ばかりを招くことに苦言を呈したことがあります。私もその党の支持者ではありませんが、同窓会は政治の場ではありません。野党に所属する同窓の議員にも声をかけるべきだと申しました。政権党に良くしておけば得をするだろうという人の集まりは、最早、同窓会ではありません。落選したら呼ばない、というのも嫌なものです。

親や子、兄弟であれば、その人が良からうが悪からうが、その関係は変わりません。むしろ悪いときにこそ手を差し伸べるものです。同窓

もまた、そういう肉親の関係と同じだと思いません。同窓会は、会社や商売の集まりではありません。

若い人の中には、委員会や支部に入ることについて、「それでどのようなメリットがあるのか」を問う人がいます。でも、同窓会というのは、メリットを求めて入るのではないと思います。

もちろん、同窓の集まりからビジネスが生まれることもありますし、私もその恩恵を受けた者の一人です。ただそれは、会で知り合い、人間関係ができて、信頼されて初めて仕事につながったのです。

ですから、強いてメリットを言えば、人間関係をつくる場を得られるということです。私たち幹事の役目は、そういう場をつくるためのお手伝いをするのだと考えます。

私のような年長者の思いを、若い会員の皆さんがどのように解されるかはわかりません。ただ私は、かつて水島先生が号令した「千葉県の中央大学同窓生の結集」の意思を継ぎ、さらに次の世代につなぎ、その達成をめざしていきたいと考えています。

目次

写真で見る千葉県支部の活動 3

巻頭言

千葉県支部会報の発刊にあたり 支部長 吉田卓 6

目次 9

創刊特集

水島廣雄先生インタビュー 人は百歳まで元気でいられる 10

祝辞

学校法人 中央大学 理事長 足立直樹 16

中央大学 総長・学長 福原紀彦 17

中央大学 学員会 会長 久野修慈 18

誌上演録

時代の変化に対応した選手獲得と指導が必要
～箱根駅伝を振り返って～ 碓井哲雄 20

会員の寄稿 25

ゴルフ部会について 54

会員の近況報告 55

千葉県支部の沿革 60

名刺広告 61

企業広告 67

編集後記 編集長 山口義夫 72

創刊 特集

千葉県支部名誉顧問

水島廣雄先生インタビュー

人は百歳まで元気でいられる

中央大学の発展のために学員の結束を

平成二四年（二〇一二年）九月三日、私たちは水島先生を聖路加国際病院に訪ねた。入院中ということで体調を心配したが、車椅子を使っておられるもののお元気なご様子。築地の街を一望する一〇階の応接フロアで待たれていた先生は、大きな声で私たちを迎え入れてくれた。また、暑いだろうと、病院一階のスターバックスコーピーから、アイスコーピーを取り寄せ、ご自分もミルクとガムシロップを入れておいしそうに飲んでおられた。

水島先生は明治四五年（一九一二年）四月

一五日、京都府舞鶴市に生まれた。昭和一一年（一九三六年）に中央大学法学部を卒業し、日本興業銀行勤務を経て、そごうの社長、会長を務めた。政財界に広い人脈を持つ実業家として活躍する傍ら、中央大学や東洋大学で教鞭をとり続けた法律家でもある。法学博士、東洋大学名誉教授で、担保法の権威でもあり、法学博士号を取得した「浮動担保の研究」は、後の「企業担保法」のもとになった。

まずは水島先生に、先生と千葉県のつながりについて伺った。

2012年4月15日、満百歳の誕生日を迎えた本支部名誉顧問・水島廣雄先生にインタビューし、先生の千葉県支部との関わりや思い出を伺うとともに、千葉県支部会員へのメッセージをいただいた。

（インタビュー・文責
吉田卓、前島一夫、山口義夫）



千葉県へのそごう出店 千葉県支部とのきつかけ

京都府出身の私が、学会千葉県支部と関わりを持つのは、昭和四二年（一九六七年）に千葉そごうをつくったときからです。しかし、私と千葉との関係はすでに戦前からありました。

私の古い友人で、塚本素山という方がいました。塚本総業の創業者です。陸軍士官学校を卒業し、陸軍大将の副官で終戦を迎え、戦後、実業家に転じました。私より少し年上です。私は戦前、陸軍士官学校の生徒に法律を教えたりしていましたから、元軍人の知人友人はたくさんいます。

塚本さんは佐倉の出身です。県内に土地をたくさん持っていて、別荘もありました。大学を出て日本興業銀行に勤めた私は、一方で、学問も続けていたので、塚本さんは論文を書く私のために、お手伝いさんのいる別荘を使わせてくれたりしました。法学博士号を取った「浮動担保の研究」を書き上げたのも、塚本さんの別荘でした。

昭和三年（一九五八年）に親戚に請われて、そごうの副社長になりました。有楽町そごうの立て直しのためです。それがうまくいき、昭和三五年（一九六〇年）に社長になりますが、なんとかそごうを日本一の百貨店にしたいと思っていました。そのための戦略として、当時は大阪と東京に三店舗だけのそごうを全国に出店させていこうと考えました。その最初が千葉で、土地や建物で塚本さんのお世話になりました。

千葉に店を出す、中央大学学会千葉県支部から支部総会の応援をしてくと頼まれました。最初は、関西の弁護士をしている学員を紹介して頼まれました。当時は総会をやっても二、三〇人しか集まらないというので、それは寂しいから協力しましょうということになりました。会場を貸せばいいのかと思ったら、食事を出せ、お土産も、ということになり、いたいこれはどうということなんだと思いました。が（笑）、結局、一〇〇人以上集まりました。その後、それが当たり前になって、最盛期は三〇〇人ぐらいになったのではないですか。いま、そういうことをしていないので、また集

まる人が減っているようですね。現金なものだといえばそれまでですが、大学を支援するには卒業生、学員が結束しなければなりません。そのためにはまず、学員が集まる場所と機会が必要。みんなが経済的に楽なわけではありませんが、出せる人が出ます。そごうも美術館の切符までつけて、ずいぶんお金を出しました。元はとれます。最近、そういうふうな発想する経営者が減りました。目先に追われてケチになりましたね。

水島先生のお話の中には、戦前戦中、そして戦後の著名人たちが続々登場する。銀行員として東北に赴任し、その後本店の証券部信託課に配属され、わずかの間に証券部次長、中小工業部次長、特別調査室部長待遇考査役等を歴任した先生は、その間も、母校中央大学の学生や陸軍士官学校の生徒たちに法律を教えていた。吉田卓支部長ら多くの学員が先生の講義を受けている。



中央大学法学

部の学生たちに

「君たちは弁護士

なんかになるな。

弁護士を雇う立

場になれ」と話し

ていたと、教え子

の一人で千葉支

部会員の太森清

司氏（昭三五卒）

は著書「私のビジネス春秋」の中で述懐している。

昭和三三年（一九五八年）、当時苦戦していた有楽町そごうの立て直しのために百貨店業界に入った水島先生は、その卓越した経営手腕と幅広い人脈とで、そごうを日本一の百貨店にすべく邁進していく。有楽町そごうの家賃交渉で、大家であり、当時の政財界・言論界の大物・正力松太郎と渡り合い、その後正力の厚い信頼を得ることとなった話は、経済界ではつとに有名である。

その影響力を頼って、千葉そごうの縁で千葉

県支部を応援していた先生の周囲には、千葉県政財界人の多くが集まった。水島先生は千葉県の発展にも大きく寄与したのである。

千葉県の発展を願う

学員ネットワークを活かす

中央大学の卒業生は、卒業すると大学のほうに関心が向かないという人が多いですね。どうしてなのでしょう。そういう面では、慶応義塾など他の大学の卒業生と違いますね。

私は母校中央大学のためにいろいろとやってきましたが、他方で、陸軍士官学校の卒業生の人脈や、東大の人たちとの交流もありました。それらは、中央大学卒業のバックボーンがあったからだと思っています。

千葉の学員も、中央大学のために熱心に活動する人はあまり多くありません。でも、みなさん愛郷心は強い。千葉支部も、この愛郷心で持っている部分もあるのじゃないかな。

千葉に店を出して、千葉のいろいろな方とお

会いしました。そごうは地域とともにやっている方針でしたから、地元自治体や議員、経済人の方々との関係を大事にしました。地元と中央官庁や財界をつないであげることもしろやりました。両方に学員もたくさんいますから、そういうネットワークも活かしました。

千葉に出店した頃の知事は友納武人さんでした。東大から官僚になり、東京湾の埋め立てを推進した人です。知事を辞めた後は自民党の代議士になりました。浦安に東京ディズニーランドをもつてくるためにつくられたオリエンタルランドという会社は、京成電鉄と三井不動産が出資しました。友納さんはあそこを住宅にするつもりだったから、なかなか払い下げをしてくれない。三井からオリエンタルランドに行った高橋政知さんは友納さんとケンカするし、大変でした。三井不動産の江戸英雄と友納さんに会いに行ったこともあります。

ようやく友納さんが折れたら、今度はオリエンタルランドは金がないからスポンサーになつてくれという。どんなものができるかわからないから、アメリカに見に行きました。そし

て、いろいろなアトラクションの中で決めたのが、「イツツ・ア・スモールワールド」。あれならいい、と言いました。億単位のスポンサー料でしたが、一番の人気でしたから、そこは元をとりました。

また、友納さんの頃は成田空港の問題もありました。革新系の議員が国会でいろいろ言う。その議員が、千葉県支部の学員だという。先生、何とかしてくれないかと頼まれて、私が総会に来た本人をつかまえて話したこともあります。そういうこともあって、学員の集まりでは、議員に挨拶などを依頼する時は、保守も革新も平等にしようということになったのではなかったかな。いまは社会党もなくなって、かつての議員も首長になったりして、成田空港を守る側になっている。世の中は変わるし、人も立場で意見が変わりますね。

沼田武知事ともよく会いました。千葉県をどうやって発展させていくかを考えている人で、何度も相談を持ちかけられました。私も一緒にいろいろ考え、また表でも裏でも大いに協力しました。そこは全国に店があり、その地域と

一緒にやっていきましたが、その中でも千葉県に特別な思いがあるのは、それだけ深いかかわりを持ったからです。

でも、知事と二人で会っているとまわりがうるさく言うので、会う時は木更津のホテルオークラにしてみました。千葉県内には、そこは最終的に千葉、柏、茂原、船橋、木更津の五店舗をオープンしましたが、なかでも木更津は思い出深いところです。

一二五年の以上の歴史を持つ中央大学は、さまざまな著名人を輩出している。法曹界は言うまでもなく、政界、経済界においても多数の人材を生んでいる。



その中には、戦後経済界の第一線を走り続けた水島先生の恩恵を受けた政財界人も少なくない。少子化の影響もあり、私立大学の

経営はますます厳しくなっている。多くの大学が生き残りをかける中で、中央大学はかつてほどのブランド力を失っているのではないかな。私たちのそんな危機感に対して、長年、中央大学の経営をみてきた水島先生は次のような話をしてくれた。

大学経営には 経済と政治の判断が必要

私は三七歳で中央大学の理事になりました。おそらく最年少でしょう。林頼三郎先生に頼まれて引き受けました。以来、長年、理事として経営に関わっていました。

大学経営も、いまは大変なようです。中央大学も移転後、あまりいい話を聞きません。やはり都心に戻るべきなのでしょうが、まとまった土地というと月島のような埋立地しかなくて、地価も高い。文部科学省あたりからどうやって予算を引き出すか、そういう腕も経営には求められていますね。

明治大学はうまくいっているようですね。都心ということもありますが、いろいろやっているのでしょうか。以前は経営が厳しい大学の代表のように言われ、中央大学が裏で経営しているという噂もまことしやかに流れました。昭和三〇年代は中央大学の経営が実に安定していましたから、そんな噂も信じられたのでしょうか。

確か昭和三十一年（一九五六年）だったか、私と同期のリコーの市村清とが、慶應義塾大学の事務長や学部長に呼ばれてご馳走になりました。中央大学は何でそんなに経営がいいのか教えると言う。慶応は大変だ、と。私はこう言いました。

「おたくには信濃町の病院（医学部）と、日吉の藤原工業（工学部）という金食い虫がいるが、中央大学は板一枚でやっている。」

すると彼らは、なるほどと頷き、板一枚、つまり黒板だけで設備投資がかからない学部をもう一つつくって収益をあげればいいのだと気付いたようです。その後すぐ、慶應義塾大学が商学部をつくと新聞に出た。昭和三二年（一九五七年）に商学部ができて、今では入る

のがなかなか難しい人気学部になっているようです。

大学経営もこのように他の良いところは見習い、意思決定を速くすることが大切です。

東洋大学もなかなか良くなっているようですね。駅伝だけでなく、昭和三十一年（一九五六年）に東洋大学が法学部を作るとき、頼まれて設立のお手伝いをしました。その後、教授として長く講義を持ちました。東洋大学はそういうことをとても感謝してくれて、今でも名誉教授として扱ってくれますし、いろいろな相談にものっています。中央大学とはずいぶん違います（笑）。

東洋大学の総長は、塩川正十郎さんです。あの方は慶応ですが、文部大臣をやったあと、昭和六三年（一九八八年）から理事長になってもらい、いまは総長。財務大臣経験者の政治家を総長にしたのです。私もそれに賛同して動いた一人ですが、私立大学の経営ではそういう政治的感覚も必要なのです。

応接フロアに響き渡る声で、理路整然とお話

をされる水島先生。知らない人は、この人が百歳であるとは、とても気づかないだろう。

百年の人生、しかも先生のような波乱万丈の人生であれば、辛いこともあったに違いない。友人であった故・阿部三郎先生が「あれは最初から水島さんを狙ったものだ」と言った、私たちが知っているあの「事件」のことや、その後、離れていった人々のこと……それらについて先生はどのようにお考えなのだろうか。

良い人に囲まれ

ストレスをためないことが大切

いま、少し調子を見るためにこの聖路加病院にいますが、こうして元気です。昔、この病院が困っているとき、寄付をしたことがありますが。歴史のあるいい病院ですからつぶしてはいけないと思い、当時としては少なくとも寄付をしました。いま、こうして立派な設備の病院になり、私はお世話になっています。あの頃のことを覚えていてくれる人や、その申し送



りを受けたお医者さんや看護師さんがよくしてくれます。同じ百歳の日野原院長もときどき部屋を訪ねてくれますが、あの方も実に多忙な日々を元気に過ごしていますね。

私のところにも、大勢人が見えます。良いときは当然たくさん人が集まってきましたが、昔に比べれば人数は減っても、まだまだ私を頼りにしてくれる人はいますから、相談にも乗ります。大勢来た頃よりも、心のある方が多い。

いまでも中央大学関係者が私のところに来て、いろいろ相談をしてくれます。でも中央大学での役はもうありませんから、すっきりしています。が、後輩のため、学会のためなら力を貸した

いと思っていま
す。中央大学のた
めに、支部や学員
会のみなさんも頑
張ってください。
いまはあまりお金
が集まらなくて大
変なようですが、
会費制のバス旅行

でもいいじゃないですか。より大勢の人が集まる場を作ってみてください。

長生きする秘訣は何かと聞かれますが、ストレスをためないことですね。長い間にはいろいろありますし、大変な時もあります。多くの人と知り合えば、いい人間ばかりではありませ
ん。あんなに面倒をみたのに、これはどういうことだというようなことをする人もいます。大
銀行のトップにまでなつて、幼稚なウソで人を
陥れる人間もいます。そういう人間を相手にす
るときは腹も立ちます。でも、それをいつまで
も苦にしているも仕方ありません。

ときどき、旧知の方が顔を見せてくれると、
近くの木村清くんの鮭屋に行ったり、病院のビ
ルにあるとんかつ屋に行くこともあります。ま
た、私がどこかに行きたいと言えば、千葉支部
の吉田卓さんをはじめ、すぐに自動車を出して
車椅子を押してくれる人がいます。ありがたい
ことです。こういう後輩、友人を多数持てて幸
せです。

人間、元気で長生きが一番です。人間はみんな百歳まで元気でいられるのだと思います。私

が見本です。みなさんも元気で、千葉県支部を盛り立て、中央大学を良くするために協力し合ってください。

二時間以上のインタビューで、少し先生もお疲れになったようだったが、それでも、これからとんかつ屋でビールでも御馳走しようと言ってくれた。私たちは、またお話を伺いに来ることを告げ、今日は御暇しますと伝えた。先生は、私たち一人ひとりと握手を交わし、中央大学と千葉県支部のために、これからも協力し合つて頑張りなさいと仰った。

水島先生は、中央大学を応援するために、学会の活動をする私たちに惜しみない援助をしてくれた。そしていまも変わらぬお気持ちを、わが学会千葉支部に持つていただいていることを改めて確認し、胸が熱くなる思いであった。先生のご恩に報いるためにも、支部活動の充実と母校支援にこれからも一生懸命努めたいと決意した。

祝辞

会報発刊を祝して



学校法人 中央大学
理事長

足立 直樹

この度は、千葉県支部会報が発刊されますこと、誠におめでたく心よりお慶び申し上げます。平素より千葉県支部・支部長の吉田卓様を始め、会員の皆様には、母校中央大学発展のために心温かいご支援とご協力を賜り、この場をお借りいたしました心より厚く御礼申し上げます。

中央大学学員会千葉県支部は、一八九六年（明治二九年）に設立された大変歴史のある、伝統ある支部でございます。この永い歴史の過程には順風の日々だけではなく、幾多の困難があったことと存じますが、その時々々の困難を乗り越

え、今日まで、充実・発展されましたことは、ひとえに現支部長の吉田卓様をはじめ、歴代役員、そして会員の皆様方の献身的な努力の賜であると深く敬意を表する次第でございます。千葉県支部では定期総会や懇親会をはじめ、箱根駅伝や関東大学女子駅伝の応援など活発な支部活動を通し会員の皆様の親睦を深められていきます。中央大学をそうした学員の皆様のつながり、団結によって支えて頂いておりますことは大変心強く、感謝致しております。

さて、現在日本は国内外の経済、雇用問題、環境、食料、少子化、エネルギー問題等数え切れないほどの課題を抱えています。今こそ、一国民として日本の将来のために新たな決意を持たなければなりません。この困難を乗り越えるためには、真の知識と教養に裏付けされた発想力、精神力、突破力を持ち、世界標準で明るい未来を切り開いていく若者を育て、社会に送り出すことが重要であり、それこそが中央大学の担うべきことと考えております。中央大学から社会に羽ばたく学生に、「中央大学を卒業してよかった」という誇りと、社会の一員として

立派に活躍するという使命感を持って頂くために、より一層全力を尽くして参ります。

中央大学は五三万人の学員の方々に支えられ、一二七年の歴史をかけて現在の土台を創って参りました。学員の皆様の、社会でのご活躍そのものが、中央大学の信頼と名声の高揚に寄与し、本学発展の基礎となっております事に、深く感謝を申し上げます。これからも千葉県支部の皆様を始め、学員の皆様と中央大学がなお一層の絆で結ばれ、新たな歴史を創り上げていきたいと存じます。

千葉県支部の皆様におかれましては、母校の更なる充実発展のために、今後とも格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、この記念すべき千葉県支部会報の発刊を契機として、貴支部が今後ますますご発展されますこと、また会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。

終わりに、このたびの千葉県支部会報発刊にあたり、大変ご尽力いただいた会報編集委員会の皆様方に、深く感謝を申し上げお祝いの言葉といたします。

会報発刊に寄せて



中央大学 総長・学長

福原 紀彦

中央大学学員会千葉県支部におかれましては、支部創立以来、日頃のさまざまな活動を通じて、本学に対し温かいご支援を賜っておりますことを、たいへん有り難く存じております。そして、この度、貴支部の学員の絆をより豊かにする会報が発刊されますことに、心から敬意を表し、お祝い申し上げます。

ご承知のとおり、本学が一八八五年（明治一八年）に英吉利法律学校として創設されてから一二五周年の記念すべき節目を迎えた際には、「實地應応ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもとに築かれてきた本学の栄えある伝統を、皆さまとともに確かめることができました。

そして、「行動する知性。— Knowledge into

Action—」というユニバーシティ・メッセージを発するとともに、「オール中央」というスローガンの下に、学員・学生・教職員はもとより、すべての中央大学関係者の方々の総力により、その伝統を守り、力強く発展させていく機運が高まりました。皆さまからは、周年事業への多大のご協力に加え、東日本大震災に伴う就学困難者に対する経済支援、被災地ボランティア活動学生への支援等のために度々の御寄付や御指導・御鞭撻を賜りました。それらに対して、ここに心から厚く御礼申し上げます。

今、日本の大学は、知識基盤社会の国際化とともにグローバル化が著しく進展し、一方で、少子高齢化の急激な進行により一八歳人口が減少して大学進学率が高まり、多くの人達が大学教育を受けることができるユニバーサル化という段階を迎えたといわれています。そして、高度な研究と教育に加えて、社会との連携や社会への貢献ということが、大学の役割として求められるようになってきました。本学では、こうした現代社会の要請に込めて、「大学力」の強化をはかり、どのような状況において

も、先輩方が築いて頂いた伝統を承継し発展させて参りたいと存じております。そのために、実学教育の伝統をグローバルに展開しながら、All Chuo を原点として、さらなる社会連携である Beyond All Chuo を目指して、多くの人々や組織との連携と協調を大切に、無限の可能性を秘めたグローバルな共生のネットワークを形成して参りたいと希望しております。千葉県支部の皆さまとともに、「躍動する中央大学ネットワーク」を形成し展開させることができれば幸甚に存じます。

昨年、本学は、国際連携を推進すべく、新たに「国際連携推進機構」を設置し、文部科学省「平成二四年度グローバル人材育成事業」タイプA（全学推進型）に全国一六大学の中の一つとして採択され、国内大学のグローバル化を牽引する拠点大学としての役割を担うことにもなりました。国内業務と海外業務といった区分さえ明確にはできなくなった現代社会において、本学は地球規模での諸課題にも的確に対応できるグローバル人材の育成を推進し、社会の発展に貢献していかねばなりません。そのた

めに、本学では、①幅広い教養とコミュニケーション能力で政策やビジネスの実施を担う「グローバル・ジェネラリスト」、②グローバル社会の政策やビジネスの企画・立案を担う「グローバル・リーダー」、③高い専門性をもって政策やビジネスを精緻化・高度化することを担う「グローバル・スペシャリスト」という育成すべき3つの人材像を掲げて、キャンパスのグ

ローバル化をはじめとする教育環境の整備とともに、新たな方法論に基づく留学プログラムを展開、教育内容のさらなる充実を図ることに、全学をあげて持続可能な国際社会を支える人材の育成に努めております。こうした取り組みにも御理解と御協力を賜れば幸いに存じます。

本学の至宝は、創立以来形成されてきた同

窓生や関係者との絆でありネットワークであり、そのなかで貴支部との連携はたいへん大きなものであり、いっそう重要さを増すと存じます。今後とも、本学の様々な取り組みへ変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。支部の益々のご発展を心より祈念いたしまして、支部会報の発刊に寄せたお祝いの御挨拶とさせていただきます。

学員相互の 絆の橋渡しに



中央大学 学員会 会長

久野 修慈

支部が一層心の交流と発展につながるものと確信致します。

私も会長としてこの五年半、全支部を訪問し、多くの学員の方々と心の握手を交わして参りましたが、その握る手に学員として母校を愛する気持を強く強く感じ嬉しく感佩して参りました。

千葉県支部会報を発刊されること心から敬意を表します。

会報が学員相互の真の絆の橋渡しとなり、貴

京都の学員の方には、千葉県匝瑳市出身の木川先生と同期生で特攻として出陣、上野駅に木川先生他学友が激励に来たその心境を聞き、学問と人間の苦しみ、悲しみを教えて頂いたこ

岐阜支部の方からは、花屋の父が中大法学部に合格したことを報告した折、貧乏な花屋であつても喜んで進学させてくれたこと、千葉支部の阿竹孝雄学員（金庫事業家）からは一枚の昭和三〇年の表彰状（大洋漁業、中部オーナーの表彰状、「戦後食糧確保のため一〇回連続南氷洋に出漁し、鯨を獲り続けたことについて」私は当時この方の秘書課長でした）を誇りを持って見せられて感激したものです。

阿竹孝雄氏曰く、この表彰状は家の宝で、こ

の表彰状（優秀な出漁手当）で五人の兄弟が戦後大学に進学でき、自分も中大を卒業できたのだと、その言葉に感激しました。

卒業してから何年もの間、学員の方々がその人生を努力され築かれ勝ち取り、笑顔で同志愛を結ばれる学員支部活動に参加されることは大学の貴重な財産であると存じます。

私は一貫して学員は大学の貴重な財産で、これを無視する大学は滅びることを訴えて参りました。

それが、今こそ将来に亘って強固にしなければならぬ時が来たかと存じます。

発刊を機に千葉支部が吉田支部長のもと役員皆様の真の同志愛で一層、発展されるようご祈念申し上げます。

処で、大学の現状は社会変化の中で厳しい転換期を迎え、T・P・P参加と共に九月入学、教育の自由化が進められて来ると存じます。

国内、国際競争に真に立ち向える大学構築への改革が求められて居ります。

それだけに固定的、依存的体質からの脱皮が

必要であります。

若い教職員の方々がその意識を強く持ち、新しい大学像に挑戦してもらいたいと存じます。

是非、学員各位のご理解と激励をお願い申し上げます。

弊方、昨年大学の功労者のお孫様を横浜の中学に紹介したことで学員の皆様にご心配ご迷惑をおかけしました事、心からお詫び申し上げます。

しかし、一二歳の児童の心と将来を大切にす

る大学になってもらいたいと念じて居ります。最後に学員、水島廣雄先生のことを発刊に際し触れさせて頂きます。

水島先生は優れた学者として事業家として幅広く活躍され、母校及び千葉支部の発展に最大のご貢献をなされました。

昨年の四月一五日には百歳の誕生日のお祝いを開催し多くの方々に祝福を受け、車椅子に座りながら、同窓の温かい気持ちに心から喜んで居られました。

その姿は年輪を越えた素晴らしいものでした。

不幸にも言われなき事故に遭われ、実業家としてその悲しみは想像を越えるものであったと思います。

人の評価は長い人生に於ける人間の心、その価値だと思います。

千葉支部に貢献された水島先生の仲間、亡き千葉銀行・笹田昇副頭取や阿部三郎元理事長など、このような方々も思いとして残してもらいたいと存じます。

これが真の同志愛でないかと思えます。同志愛が失われつつある昨今、今こそ、その

気持を白門の一員として人間として豊かにしたいものです。

発刊を機に雑感を述べましたが、千葉こそ白門学員のふるさと、同志愛のふるさとだとの気概で益々ご発展されることをご祈念申し上げます。

発刊おめでとうございました。



時代の変化に対応した 選手獲得と指導が必要

箱根駅伝を振り返って

神奈川工科大学陸上競技部 碓井 哲雄 氏



千葉県支部と姉妹関係にある京葉支部では、毎年暮れに、翌年の箱根駅伝の解説を務める碓井氏を招いた講演会を開催し、新年のレースの展望について伺っている。今回、千葉県支部では、平成二五年新年会（二月九日、千葉市・ラ・セーヌブランチ）にあたり、正月に開催されたレースの結果を踏まえて、中央大学の箱根駅伝と現在の状況と今後について語っていただいた。（本講演録は当日の講演内容をもとに編集担当者の責により要旨を掲載した）

低体温症で無念の棄権

今年の箱根駅伝（平成二五年、第八九回大会）の結果はご承知の通りです。八五回もの出場した中央大学にとって、途中棄権ははじめてのことでした。

まず、そのときの状況ですが、二区で新庄将太（二年）が一九位で、彼はエースなんです。そこからなかなか挽回できませんでした。一八位でタスキを受け取った五区の四年生の野脇

勇志は、一時は一五位まで順位を上げました。しかし、走っている間常に前との差が大きくなり、一人で風を受ける形での走り。冷たい風をまともに受け、体温を奪われ、低体温症と脱水症状に陥りました。一九キロ地点の標高の最高点を過ぎると、突然ペースダウンし、フラフラになり、そして芦ノ湖まであと一・七キロというところで転倒し、そこで抱えられて棄権となりました。

本人はまだ意識はあったようで、さかんに

「走りたい、走りたい」と言っていたようです。ちなみに、同じ五区で先に棄権した城西大学の選手は、一時は意識不明で命も危ないような状態で病院に担ぎ込まれました。

棄権により翌日の復路は参考記録でしかなくなり順位は関係なくなるわけですが、それでも選手たちは、優勝するつもりで走ろうと呼びかけあったようです。実際、六区の代田修平(三年)らは頑張りましたし、八区の永井秀篤(二年)は、区間一位でした。しかし、それでも気持ちが続かなかったのか、最後はあのような結果で、一九番目となりました。

選手たちに甘さはなかったか

惨敗の原因は何かというと、直接的には強い風による影響です。昔に比べて暖かいので、選手たちのユニフォームはランニングだけです。我々の頃は、毎回必ず雪が降りましたから、長袖に真綿

を縫い付けたり、腹に新聞紙を巻いて風を通さないようにしたりしましたが、いまはそういうことはしない。それで寒さにやられました。

しかし、風は中大にばかり吹いたわけではないですから、やはりその他の理由を考えなければなりません。今回の場合、暮れの三〇日、三一日になって出場メンバーの交代がありました。これは選手たちにとって大きな影響を与えたと思います。そして、複数の選手が、体調があまり良くないと訴えていました。

今年の選手たちを見ていて、正直、私には不安がありました。上級生が自分走ることのみを考え、後輩の面倒がおろそかになっているのではないかと、練習に向かう姿勢が、これまでの選手たちに比べて甘いというか、真剣さに欠けるような感じがするとか、なんとなくそのようなことを感じ、それが本番に影響しないかと心配していたのです。それでも、一〇月八日の出雲全日本学生駅伝では三位でした。それが慢心を生んだのではないかとも思います。

碓井 哲雄 氏 (Tetsuo Usui)

中央大学時代、箱根駅伝に3度出場し、10区の最終ランナーと花の2区を走り、中央大学の6連覇に貢献。その後は指導者として、日本陸上競技連盟や日本オリンピック委員会では選手を育成していた。また、解説者として箱根駅伝をはじめ各地の駅伝などのテレビ解説を務める。

1941年 東京都生まれ。1960年 中央大学杉並高校卒業、東京急行電鉄株式会社入社。1961年 中央大学経済学部入学、1965年卒業。

その後、名古屋鉄道で選手、中央大学、本田技研工業でコーチ・監督を経て、現在は神奈川工科大学陸上競技部の監督。

日台スポーツ文化推進会理事、全国マラソン連盟理事。2002年秩父宮章受章。

選手が自らを律していくことが大切

選手の練習に向かう姿勢といったことを言うと、指導者の問題に波及します。ただ、現在の指導者は本当に大変です。子供たちは昔と違い、実に豊かな中で、ある意味で我儘に育っています。練習だけでなく、日常生活、寮での時間管理などについて、指導者がどこまで強制できるか、選手たちがそれを受け入れるか、ということが本当に難しくなっています。女子選手の場合、監督が部屋に入ることさえできないのですから。

また、最近世間を騒がせている「体罰」のこともあります。私たちの時代のことを持ち出し、それを良かったというわけではありませんが、言うことを聞かず危ないこと、間違ったことをする子供に対して、親が手を挙げるといふことはあるわけで、手を挙げたり罰を与えることすべてを悪とする論調がエスカレートすると、指導者になる者は誰もいなくなるのではないかと心配です。

また、今回のような結果になると監督の更迭という話も出ます。しかし、指導者を交代させればいいということではありません。他大学でも、前回の結果が悪いからと監督を交代させて、それで良い結果を出したというところはありません。

優勝した日体大は、予選会からの勝ち残り組。去年は、繰り上げスタートもあり一九位でした。それで別府健至監督を交代させていたら、今回の優勝はあったかどうかわかりません。

日体大は去年の屈辱の後、選手自らが勝つために自分たちの生活を律していたと聞いています。中大も、今回のことを踏まえ、選手たちがそのように自主的に、勝つためにどうすればいいかを考えるようになってくれればと思います。

全区間安定した走りが優勝につながる

昔と比べて、今の中大が強いか弱いかという議論がよくありますが、昔と今とでは状況が

まったく違います。はっきり

言つて、私たちが箱根を走つ

た昭和三〇年

代から四〇年

代初めの頃は、

優勝を狙える

チームは、中大

と日大と早大ぐらい。その三校は選手の質も、他の大学とは全然違いました。

ところが、今はどこが優勝してもおかしくない状態です。「今年の中大は何位ぐらいですか」と聞かれると、「二位から一二位の間」とよく答えました。もともと、今年のような成績は予想しませんでした……。

往路で勝てば復路もという傾向がありますが、やはり大切なのは、すべての区間で安定した走りをする事です。駒澤大は結局総合三位でしたが、区間別では一一位と一九位のところ



がありました。東洋大（総合二位）も一位と一〇位があり、七位の二区間。あれだけの選手を集めた早大（総合五位）も、一七位や一四位の区間がありました。

それに対して日体大の区間順位を見ると、区間賞獲得は五区だけで、最低は一区と六区の七位。そして七区以降はすべて区間二位と安定しています。そういう安定した走りが総合優勝につながります。

スカウト合戦、条件のエスカレートも

もちろん良い選手がたくさんいることは勝つための大きな要素です。入学した後に育てればいいではないか、というご意見もあるかと思いますが、実際の指導の現場では、入学後に鍛え上げられ、区間賞を出せるような選手になるというのはごくわずかの可能性です。先ほども言ったように、現在の指導者は、昔のような鍛

え方を選手に強制できません。

それでは良い選手を集めればいいではないか、ということになります。それも大変です。他大学では、全国の高校を回り、優秀な選手に声をかけて歩く「スカウト専門」のコーチを入れているところもあります。そして、親御さんや高校の指導者側の要求も、昔では考えられないようになっていきます。寮費がタダ、学費免除といったことだけでなく、マッサージなど健康保険がきかない治療の費用を出してくれるのかなど、驚くような条件を聞いてきます。そしてそれは、そういうことをやってでも良い選手を集めようという大学があるからです。中大は他大学に比べスポーツ推薦の枠も少なく、また条件においても、そのような大盤振る舞いはありません。

有名校や伝統校でも駅伝を広告に利用

このように選手獲得がエスカレートした背景は、やはりテレビ放映の影響があると思います。今年の箱根駅伝の平均視聴率は二八・五%でした。国道一号線沿いに東京箱根を往復するという内容、そして正月の二日、三日という日程が良いのでしょうか。沿道の応援はのべ一二〇万人だそうです。

箱根駅伝の中継は日本テレビがやっていますが、対抗してTBSが放送している元旦のニューイヤ駅伝（全日本実業団対抗駅伝競走大会）は、それほどの視聴率ではないようです。元旦は、みなさんいろいろ忙しいのでしよう。いずれにせよ、二日、三日で、合わせて一四時間半の生放送ですから、そこで良い成績を出して学校名が連呼されれば、その広告効果は絶大です。

ちなみに私はホンダにいたこともあります。移動のクルマや先導する白バイのメーカーも、自社の車両を使用してもらいたいと猛烈にアピールしているようです。白バイは、ホンダ



かスズキですし。

このような状況の中で、他大学は駅伝を大学の広告宣伝活動に重要なものとして考え、それに沿った政策を行っています。かつては、そのよ

うなことをするのは、いわゆる無名校だとされましたが、今や有名校や伝統校でも、そのようなことを行っています。

失敗を受けとめて成長することを期待

中央大学は箱根駅伝八九回の歴史の中で、八五回の出場を果たしています。連覇も経験しています。しかし、現在の中大の陸上チームは、いま申し上げたような大学間の選手獲得競

争の中でチームを組み、現代の風潮の中で育った選手たちを指導しながら出場しているのです。指導者側としてはいろいろと苦勞しながらやっています。

今年をはじめて予選会に出ます。予選会は選手一二人が一斉に走り、その上位一〇名のタイムで競うというものです。来年の大会は予選落ち校の有力選手で編成する学連選抜チームがなくなり、二〇校が出場することになっていきます。予選会で一〇校が選ばれます。この予選会で落ちるといふことはないと思いますが、前にも申し上げたように、どこが勝ってもおかしくないような状況ですから、油断できません。

以上お話ししたように、現在の箱根駅伝をめぐってはいろいろな問題があり、ただ練習すれば勝てる、という状況ではありません。しかしそれでも、指導者と選手とが一生懸命やれば、それなりの結果は出せます。

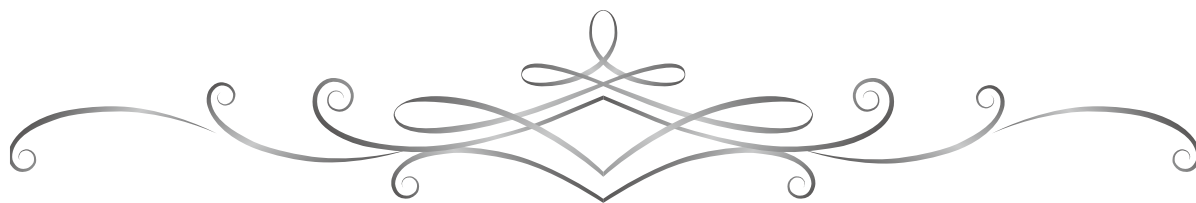
今回の四年生は実業団に進みました。そして、三年生以下が来年に向けて頑張ると言っ

います。今回の失敗を彼らがしっかりと受けとめて、自分自身の甘さを考え直すきっかけになってくれれば、卒業生も、そして来年は箱根をめざす在学生も、良い結果を出せると思います。

〔平成二五年千葉県支部新年会第一部講演会
(二月九日)より〕



箱根駅伝チーム富津合宿中を陣中見舞い
(2013年3月20日)



会員の寄稿

滝沢健	吉田卓	荒孝一	山口義夫	白井日出男	山本順一	吉田政高	小高丑松	勝田武彦	志垣明	後地俊男	大森清司	前島一夫	千村文彦	井戸茂美	竹内功
愛場政幸	鳥切春雄	吉橋重夫	日比野臣三郎	石渡哲彦	木村清	大久保芳一	藤橋陽子	澤幡仁	川島宥・正博	門山宏哲	椎名薫	吉田明	猪俣正栄	芦村敏徳	中村芳男

会報発行にあたり会員からの寄稿を募った。収録は平成二五年三月末日到着分までとし、掲載は編集委員会への原稿到着順とした（一部、ページ割の都合で異動した）。

また、原稿は原則として著者（会員）の執筆のままとしたが、一部、編集委員の責により校正したことをご承知いただきたい。



夢に向かつて



竹内 功

理工学部土木工学科
昭和四二年卒業

大手建設会社で三六年、協力会社で一〇年、今年の平成二五年三月で四六年間の勤務となり、六月には七〇歳になる。建設一筋の会社人生を振り返ると、良くここまでやったものだと達成感で目が潤んでくる。

私は今が一つの区切りだと決めている。では、これから自分は何をするべきなのか、正直言っではつきりしていなかった。「僕は僕を必要としているところへ行く」と言っマリーナズを後にした、三九歳の若者、イチローの行動が頭をよぎった。私はあまりにも会社に依存しすぎていたのではないか、これからは自分の力で何ができるかだ。

私には四六年の会社人生で積み重ねた技術者魂と誇りがある。土木工事の施工、その中でも吊橋に関しては、誰にも負けない自負がある。この施工技術で私を必要としているところがあればどこへでも行く。会社の大小は関係ない。協力してほしいと言う若手技術者の熱意があれ

ばどこへでも行く。三十数年前、私が悩んで仕事をしたのと同じように、若い技術者達も苦しんでいるだろう。その手助けをしてやりたい。

技術力とは、何が起きるかを予測する力。これに對して計画を立てる力、そして予測を超えることができる時に対応する力との総合力であると思う。

これに即座に答えを出せる力、そして知らない事が生じた時、それを聞くための人脈が必要だ。これが出来る技術者を一流と言うのではないでしようか。

我々技術者は、与えられた目の前の仕事を一生懸命にやってきました。一生懸命やると一日中やっていても飽きない。決して楽道ではないが、この努力した技術者達によって、日本の国土整備が確実に行われてきた。結果的には「世の為、人の為」になっていると思う。

これから進路を選ぶ高校生諸君、今土木工学を学んでいる学生諸君、そして既に社会に出た技術者諸君、君達の選択は決して悪くない。自分自身の力で一生懸命努力して大きく前進してほしい。

学校にこだわらな、会社の大小を気にするな、上司に頼りすぎるな、国に期待しすぎるな。その代り尊敬出来る先生や先輩や友人を見つけてなさい。そしてその人を鏡として自分をしっかりと見つめなさい。

七〇歳近い私の親友は技術士会で土木技術

の向上を目指し全国を飛び回っている。また七二歳の私の先輩は、モンゴルに橋を架けに行っている。今や、オジサンが荒野を目指している。私も負けられない。若手技術者達の成長と言っ夢に向かつてスタートしたい。

【経歴】

昭和四二年四月 清水建設 入社

(明石海峡大橋建設所長、営業部長)

平成一四年一月 清水建設退社

平成一五年一月 幸和建設興業 入社

(取締役営業部長、防災防副分会長)

平成二五年三月 現在に至る

千葉県会報に寄せて



井戸 茂美

法学部
昭和二九年卒業
中央大学我孫子会会長

此の度の会報発行の運び誠に御目度とう御座居ます。中央大学を昭和二九年卒業以来、今から四〇年前、新宿の生地を離れ千葉県我孫子市に居を移し早四〇年、誠に年の経過も早いものとなりました。その間、我孫子での居住のさまは誠にスピードが早く一週間に一度の上京の連続で未だに保善商業高校又南甲クラブ等

東日本大震災の支援と 巨大地震への備え



千村 文彦

理工学部
昭和四一年卒業
自然大好き自由人

その校域は少なくとも私の活域を充してくれてなく、お金は十分ではないがその活力は充してもらえない八二才となりました。しかし私はこの我孫子に白門会を設けました。そして自他共に祝福しあえる友人を作りつつあります。大変感謝致して居ります。千葉県本郷には大変感謝致して居ります。これらは今後の交流関係に良く、マイナスを充たし良き発展のエネルギーに連がるものと確信しています。病ひらしき事は一度の卒倒、以来その後は生き返り、余世を出来る丈のエネルギーにせんと無理せず友人らに感謝の気持で一杯です。

一度卒倒してからは立上り世間を広くエネルギーにしようと思わず前向きな姿勢を朝の感謝のお祈りからスタートさせ、又安息に入っております。

一日の日記は必ずその日の中に日記に記し社会現象を軽いタッチで網羅するのを楽しみに明日を迎える人生の訓にして居ります。今後共、自他共に祝福出来る人生への努力をして呉れる一生をご祈願しております。

お互いさまお元気で前向きで前進しましょう。
立冬を迎えて 平成二十三年一月一〇日

二〇一一年三月二一日一四時一六分 宮城県

牡鹿半島の東南東沖一三〇kmの海底を震源とする大地震が発生した。マグニチュード九・〇、最大震度7で観測史上最大の地震である。この地震により場所によっては波高一〇m以上、最大遡上高四〇mもの大津波が発生し、東北から関東地方太平洋沿岸部に大災害をもたらした。

津波以外にも液状化現象、地盤沈下などの被害がいたるところで発生し、ライフラインが寸断された。

そして地震から一時間後に津波に襲われた東京電力福島第一原子力発電所が想定外の原子力大事故に遭遇してしまった。

千葉県は東北三県・茨城県に継ぐ五番目の被災地となってしまうので、私は旧飯岡町・浦安市・香取市の被災状況を視察し、旧飯岡町へ被災家屋の片付けボランティアに参加した。

その後一年半経過した平成二十四年八月に宮城県・岩手県の被災地を視察して地震と津波の恐ろしさを実感し、大きな被災状況を見て絶句し復興支援の必要性を痛感した。そして生き地獄を見ても忍耐強く道徳心をもって頑張られ被災者に敬意を表するとともに、早く笑顔が戻ってもらいたいと願う気持ちになった。

東北の人達は、人という字が「ノ」を書き支え「、」を書く文字の意味（人とは支えあう）をよく理解して生活していると思う。

私を含め他の都府県の人達は、絆という聞こえのよい言葉を知っているが、自分ひとり立ちしているので支えはいらないと思っている人が多い。絆の前に支えあう人の意味と気持ちを理解し、絆と共に行動することが必要なのだろうか。瓦礫受け入れについても反対する人がいる。少なくとも安全基準内の瓦礫は、住民が反対することなく各自自治体が進んで引きとることが必要と思う。

国において被災県への支援取り組みを一層進めてもらい、我々も出来るだけ支援に参加する必要があるのではなからうか。

東北地方の支えあいの教訓と被災支援を理解し、行動することによって、近々起こる可能性のある首都直下地震・南海トラフ等の巨大地震に備える知恵が出てくるのではなからうか。

千葉県会報に寄せて



前島 一夫

経済学部
昭和三五年卒業

東京中野に住んでいた私にとって、千葉県はとても遠いところで臨海学校や潮干狩りの思い出しかありませんでした。

中央大学に入学して数多くの先輩や友達を得て初めて距離感が縮まりました。それでもせいぜいそれは船橋ぐら이었다と記憶しています。

私が初めて千葉県民として転居してきたとき、千葉県支部の例会に初めて誘ってくれたのが二九年卒業の金澤照夫先輩です。学生時代、かの有名な地下食堂の専務をしていてひまじい時はよく内緒で大盛りにして貰ったり、ただ飯を食わしてもらいました。その弟の金澤亮ちゃん（三六経卒）が船橋の前原に住んでいて大学二年のときに泊りに行ったことがあります。翌朝、津田沼から御茶ノ水まで総武線に乗りましたら、先のほうから魚を背負って行商に行くおばさん達が、船橋あたりから野菜を背負って乗り込んでくるおばさん達と、野菜と魚を半分ずつ車内で交換し合っておしゃべりが

はじまりました。何とのんびりした時代だったか、千葉はそれぐらい田舎でもあったのでしよう。昭和五四年に四街道に引っ越してきた時家族で訪ねて来てくれた亮ちゃんも二年程前に黄泉の国へ旅立ちました。淋しい限りです。

初めて参加した千葉県支部例会は「梅松や」という料亭でした。当時の事務局長さんが後の支部長石村起一先輩（千葉そごう副社長）で、黒川厚雄先輩（弁護士）が世話役として大変歓迎してくださった思い出は今でもはつきり覚えています。そのときお隣の席がこれも後の支部長齋藤彦伍さんだったと思います。幹事長は関根義昭先輩（二八年卒）でした。

その後石村起一先輩が幹事長になられ、事務局長に推挙していただき、鈴木嘉重支部長、石村起一支部長、齋藤彦伍支部長と石村先輩の後押しで幹事長を八年もさせて頂きました。

現支部長の吉田卓先輩とはこれまた古いお付き合いで、学生時代からの縁で千葉県支部入会後は会社の社員旅行や潮干狩りなどに誘って貰い楽しい思い出を残しています。

仕事の面でも多くの方々に応援させて頂きました。ボージョーレー・ヌーヴォーが一月の第三木曜日に開禁になるのですが、フランス政府の要請で当日の夜中まで通関が切れない時代、成田空港の近くにお住まいの小川国彦先輩（元成田市

長）の事務所の会議室を借り、貸し布団で社員一〇名ぐらいと待機させて頂き、夜中の一二時に通関が完了すると直ちにみんなで全国へ出荷するのです。おにぎりやみかんの差し入れなど頂いてお世話になりました。

自分のことばかり書きましたが、中央大学学会千葉支部は先輩後輩が仲良く助け合い、中大の校是でもありました「質実剛健 家族的情味」のある楽しい会でした。これからもこの伝統の標を大切に後輩たちにつなぎたいと思います。

野田つ子



大森 清司

法学部
昭和三五年卒業

私は「江戸っ子」ならぬ、「野田っ子」である。父母も私も野田に生まれ、野田で育ち、今野田に暮らしている。野田は千葉県の最北端にあり、利根川と江戸川と利根運河に挟まれた細長い三角地帯である。市の北部は合併した旧関宿町で、徳川家の親藩・久世家五万石の城下町である。

市の中心部は江戸時代から続く醤油の街である。千葉市など県の中心部からは遠いので、同じ千葉県民でも醤油工場見学かゴルフでもないかと、野田に来たことがない人も多いことだろう。

私は昭和十二年（一九三七）生まれで、野田二中、柏市の県立東葛飾高校を経て、中央大学法学部に入った。在学中には、水島広雄先生から信託法の講義をお聞きした。昭和五年に卒業して、直ちに野田に本社のある野田醤油（現在のキッコーマン）に入社した。入社してからは野田、松戸、福島、山梨などに住んだが、勤務地は東京が圧倒的に長かった。野田での勤務は入社早々の人事部、企画室と後半の本社総務部長時代の一〇年間であった。キッコーマンは現在世界中に事業展開をしているグローバル企業になっているが、家族帯同での海外勤務はしなかった。会社には平成二年（二〇一〇）まで通算して五〇年間在籍をしていた。

千葉県はアメリカのウィスコンシン州と姉妹提携しているが、これは一九七二年にキッコーマンが戦後はじめの海外工場をウィスコンシン州に建設したことが縁で結ばれたものである。本社総務部長時代は、地元も担当したので、千葉県食品衛生協会の副会長などを仰せつかった。最近では地元の警察協議会会長、自治会長などを務めたり、野田市にある公益財団法人興風会

（教育・育英）の理事、東葛飾高校同窓会副会長などをしてしている。

大学を卒業した後は、鈴木敏文氏が理事長時代に学校法人理事、南甲倶楽部常任理事、アメリカ研究会OB会長などを歴任してきたが、現在は大学評議員、本部学員会幹事、白門三五会副会長、南甲倶楽部相談役などを務めるのみである。

千葉県支部での活動は時間的、距離的な制約もあって十分にできず、申し訳なく思っている。沼田武元千葉県知事（一九八一年より五期二〇年間）が母校東葛飾高校の出身で、知事が出席する高校同窓会総会と千葉県支部総会が毎年同じ日だった関係もある。キッコーマンにも白門会があり、長く会長をつとめてきた。最近では近隣の流山白門会の会合にも顔を出している。なお、これまでの私の人生を語る本としては「私のビジネス春秋」、「春秋余情―私のほどほど人生」の二冊（いずれも諏訪書房）を上梓している。

【経歴】
元 キッコーマン 代表取締役専務
元 学校法人 中央大学理事
中央大学評議員（現在）

二つのふるさと



後地 俊男

商学部
昭和三十一年卒業

昭和三〇年二二歳の春。

生まれて初めて千葉県を訪れた年であった。それまでは、千葉県は私の故郷である和歌山県の先達が、海路を黒潮に流されて土着し、望郷の情念に駆られて勝浦、白浜等の地名を付けた。そして気候、風土の類似から農業、漁業、和歌山の産物である味噌醤油の類も普及発展させた等、漠然とした感覚でしか捉えていなかった。

ただし、野球王国であることはよく聞かされ熟知していた。

小学六年生で太平洋戦争の終戦を迎え、旧制中学、新制高校の過程で当時の占領政策から地理教科が除外され、勉強もしなかったせいもあり、この手の知識は薄弱であった。

昭和二十七年春、当時移住に必携とされた米穀通帳をかかえて中大に進学し、練馬区立野町にあった硬式野球部合宿所（自彊舎）に入り在学中の住処となった。

ところで、千葉県への初めての訪問は、昭和

三〇年中大四年生になった早春のことで、硬式野

球部の木更津キャンプであった。千葉駅が現在の東千葉駅で内房線へ一日ポイントを切り替えて向かったものである。総勢三千余名、二〇日あまりの日程で市内の粋な黒塀の旅館が宿舎であった。

キャンプの球場は、当時清見台の市営球場で、眼下には木更津市街、飛行場、東京湾、対岸には横浜、川崎市、遠くには富士山が見望される絶好の環境であった。

驚いたことに、キャンプ中の昼下がり、毎日外野席に派手な着流しのあでやかな女性が多数キャンプの見学に来てくれたことである。

OBに聞くと色町の女性とか！なんとウブだったことか。

結果、全員変な張り切りようでキャンプの成果が上がったことであった。

三九年石油会社の千葉支店に勤務。千葉との縁が深くなり、海外、国内勤務の出入りがあつたものの五〇年から千葉県民になり、学員会千葉県支部に所属している。

当支部の忘れえぬ思い出のひとつとして、故阿部理事長の依頼を受け、「すしざんまい」で著名な喜代村の木村清社長のご協力を得て、ホームカミングデーで二〇〇kgを超える本間産、生本マグロの解体ショウを担当させていただいた。爾来木村社長とは公私ともにご厚誼を

いただいている。

現在では数多くの団体、組織、友人知人に恵まれての活動であるが、すべて千葉県が起点であり中心となっている。

紀州の先達が千葉に来て融和同化してきたように、自分にもその道程をたどっているように運命とか歴史の流れを感じ、誇りと幸せを感じる今日この頃である。

千葉県支部に入会して



志垣 明

法学部
昭和三四年卒業

三〇年か四〇年前を思いだしている。未だ水島廣雄先生がお元気の頃、『そごう』の千葉進出で県支部も故石村さん、故坂本さんを中心に全国でも有数の大支部になった。

どんな会でもリーダーの強力な指導が必要であると今更ながら思い出す。

私は水島先生の不肖の弟子であつて、元の職場の関係で『そごう』の進出は大変な快挙であつたように思う。

千葉に都会的な雰囲気を持つてこられたのは、千葉の発展に寄与したものと思つている。事務所用の建物をうまく利用して都市百貨店としての威容を誇つた。

その頃を知つている人は少なくなつたが、今にして思えば故松井市長の〈旭饅頭〉を『そごう』で作り、総会で三〇〇人の参加者に配つたこと等懐かしい思い出である。

歴史ある千葉県支部の今後を考えるに、第一に三、〇〇〇人以上の会員がもつと関心を持つてくれるように幹部だけではなく会員各自が関心を持たねばならぬことである。第二に若い人がもつと参加するように考えねばならない。今の若い人はあまり外に向かつて活動しない様だが、彼らが行つてみたいと思つような魅力あるイベントを開催すべきだと思う。言い古されていて困難なことかもしれないが継続していかなばならないと思う。

今までは硬い話題のものが多くようだがもつと親しみやすい物を考えるべきであろう。例えば音楽会のようなもの。

何よりも活動するには、お金が必要で昔と違い各個人が努力して会費未納の人へのアプローチも必要である。

今の世の中、各人が少額であれ出しあつて会の維持運営に努めるべきである。

最後に東葛地区（柏、松戸、流山、野田、我孫子等）に対する組織化が必要になってくると思う。各地域の特性もあり難しいが、今後はそれに向かつて取り組むべきである。

とにかく、老・壮・青、皆で県支部を盛り上げていかねばと思う。

中央大学と私

戦中戦後の混乱と貧しい日本で教育を受け、右肩上がり経済で目一杯働き、退役後は失われた経済で一六年度に思う。

勝田 武彦

法学部政治学科
昭和三四年卒業

小学三年八月に敗戦を迎え、皇国教育と戦後の民主主義、新憲法下の教育を受けた世代であります。戦後六七年目。戦争を体験し知る世代も少なくなり、悲惨な戦争が風化されつつある危険な世の中になりつつある。この歴史事実を忘れさせない為に後の世代に語り伝える必要がある。

現在第二の人生を展開、失敗も成功もあり、喜びも悲しみも重ねて後期高齢者七六歳になる。学生時代は歴史学研究会に所属し、フォー

クダンスと歌声運動に青春を燃やした、在学三年、四年生の時には学生自治委員を仰せ付けられ、六〇年安保騒動の前夜を迎えた大変な時代でした。「惜別の歌」へ島崎藤村原作、中大先輩藤江英輔作曲は当時歌声喫茶で歌われた反戦平和と仲間づくりの歌であった。

卒業後故郷野田三ヶ町夏祭り祭事係を拜命し、引き続き野田市教委・社会教育委員（四年）の任務を果たした。一九七一年野田市議会に於いて、選管委員に当選し九期三二年務めた。他エコロジー団体・野田野鳥同好会、樹木の会に所属し、地域活動もしてきた。地域の歴史探求として野田地方史〈近世古文書解説研究〉で故郷の魅力を発見してきた。

一方、豊かな感性を磨くために大正琴演奏を勉強して、本年「名取」称号を与えられ、地域でのボランティア演奏活動をしている。特に環境と生態観察（俳句）は、男の平均寿命八〇歳目標に命火を燃やしてガンバツテ活動していきたい。卒業時は家業金物販売業に従事し、一九六九年から三共（株）〈現第一三共（株）〉の系列会社で医薬以外の事業、住宅（販売・設計）と健康食品の販売に携わってきた。現在多くの団体の直接責任ある立場から次のリーダーへ引き渡し、歩んできた履歴を記録中。生き方は「小さな心のスケールで一生終わるな・報われる人生と感謝される生活遣

産」を残したい。気持を俳句で表現。

☆☆紅葉山 花咲きて実を 結ぶなり

「遠野物語」への旅

小高 丑松

法学部
昭和三〇年卒業

いつかは行ってみたいと思っていた民話の故里、遠野郷へ数年前の日弁連人権大会の折に訪れた。

周知のように「遠野物語」は「遠野の人、佐々木鏡石君より聞きたり」と、冒頭にあるように日本民俗学の父と称される柳田国男が遠野出身の佐々木喜善（鏡石）の話と柳田の自宅（東京市谷加賀町）で聞きとる形で生まれた。彼は知人の紹介で佐々木と会い、彼の語る内容に魅了されて書いたと言われている。

盛岡からバスに揺られて約一時間、豪農千葉家の「曲り家」を見学した。馬小屋と住居を直に組み合わせたわら葺屋根で居ながらにして馬を観察できるといふ構造で、馬を如何に大切に養育していたかが偲ばれた。そこからまた小一時間バスで漸く遠野に着いた。

まずは人気観光スポットのカッパ淵へ。川幅

は約五メートル、水はよどみなく澄み音もなく流れている。湖の木の根元に小さなカッパの瀬戸の像がある。案内人の話をきく。「川にはカッパ多く住めり」と物語にあるが、初代の案内人は子供の頃この湖でカッパを見た、という。「カッパの顔は赤く人間に子供を生ませた」と物語にあるが、ホンマかと疑いたくなるが、そこが民話の面白いところ。

その後語り部館で七〇代の老女から民話「オシラサマ」を聞く。

「昔あるところに貧しき百姓あり。妻はなくて美しき娘あり。また一頭の馬を養う。娘この馬を愛して夜になればうまやに行きて寝ね、ついに馬と夫婦になれり。ある夜父はこの事を知りて娘には知らせず、馬を連れ出して桑の木につり下げて殺したり。その夜娘は馬のおらぬより父に尋ねてこの事を知り、驚き悲しみて桑の木の下に行き、死したる馬の首にすがりて泣きいたりしを、父はこれをにくみて、斧をもって馬の首を切り落とせしに、たちまち娘はその首に乗りたるまま天に昇り去れり。オシラサマと云うのはこの時より成りたる神なり」

主に東北地方の旧家などにまつられるオシラサマは蚕や家、眼などの神だという。今でも「オシラ遊び」といって毎年一度、主に女性が中心になってオシラサマ（桑の木の芯に一方は

馬の顔、他方は娘の顔が彫られている二体一組のもの）に衣を着せ、化粧させたりする遊びがあるという。

娘が馬の首と共に天に昇ってしまったところは「竹取物語」を思わせる。

遠野物語には、「ザシキワラシ」「マヨイガ」「神隠し」「山の神」など神にまつわる話がつきない。

柳田は東京帝大で政治学を学び、農商務省に入省し、地方への出張時にそれぞれの地方に係わる伝承をその都度数多く聞き、次第に農政学から民俗学へと関心が移り、わが国の「民俗学の父」と言われるようになった、といわれている。

いま多摩の母校は

吉田 政高

法学部

昭和五三年卒業



平成二四年一〇月二八日の早朝、千葉を後にホームカミングデーの会場・多摩キャンパスへと、ホトクリス搭載の日本一のバスで向かった。小雨降る中、バスを降り立つと、広い大地の新たな校舎の姿が、遙か昔に学んだ駿河台の

学び舎の面影と対照的にまぶしく映った。

迷って、ウロチョロしていると、学生さんが声をかけてくれた。お話によると、福島から来ているとのこと、幸い実家は直接の被害を受けていないとのことであるが、この多摩地域のお水や空気など現在、身の回りの放射能の状況はどうなっているのでしょうか。とお話になった。

確かに私たちは日々、報道など大量の断片的・挑発的な情報により不安に駆りたてられているのである。これからの世代を担う若者の不安に慮えていくことも自分たちに課せられた宿題である。すばらしい図書館を特別開放してくれているとのことと利用させてもらい、広い・ゆったりとした机の灯の下で、今の自分の作業ノートに新たな「想い」を追加させてもらった。

そして早速、自分の眼と足で、ここおよび多摩を歩き回って自分なりの結果を提示すべく調査研究をしてみることにした。

当日の校庭の一時あたりの放射線量は〇・〇六マイクロシーベルト、クレセントホール内の値は〇・〇五マイクロシーベルトと東京都二三区や千葉と同程度の値を示していた。また、水道の蛇口の放射能（セシウム134とセシウム137の合計）は不検出であった。

ここにはキャンパスの値を示した。他の、河川や生命に必須の水と放射線の現状などのお話は、

いずれ機会が与えられたら、ご披露してみたい。

少なからず、日々利用している飲料水、生活用水のほとんどは多摩川などの河川から取水されて、水道で処理されて私たちの細胞・生命を維持していくための大事なものの一つとなっている。

おわりとして、母校に育まれた「最後の時まで頑張る気持ち」を大切にしながら、温かく迎えてくださった学校の皆さんに感謝いたします！

【経歴】

千葉県庁勤務後、現在千葉大学医学部大学院非常勤講師として従事。



山本 順一

理工学部管理工学科
昭和五三年卒業

恩師の一言が 生涯のナビゲーターに

今から四〇年前、その地域では進学校と言われている高校に在籍していた私は人並みに受験競争というものを経験した。しかし高校三年間吹奏楽に熱中し、部活三昧だった私が現役合格などするはずも無かった。現役受験した大学は千葉大園芸学部と中大理工学部である。在学

中の前後にオイルショックがあつて就職難の時代だった。従つて、就職に有利で家から通える理系二校を選んだ。高校の担任に志望大学を伝えると、「まあ、一浪はしようがねえな」と、受験前に言われる始末である。

母子家庭だったので、できれば国立大学へと思つて一浪したが、翌年もはね返された。

中大理工学部に入學すると、千葉大や横国大崩れが多いのに驚いた。学費が国立と私立で一〇倍くらい違つていた時代だったからだ。

かくして大学生生活がスタートした。実験が多いのと数学の講義ばかりで辟易したが、女子大と合コンしたり、卒研仲間とコンパをしたり、それなりの大学生活を過ごした。そして、四年次に卒研の指導をしていただいた恩師に言われた言葉が生涯のナビゲーターになった。

「中大は教授三流、学生二流、しかしOBは一流だ！」

できの悪かった私と卒業後もずっとお付き合いを続けて下さった恩師との飲み会でそのことを思い出話にすると、「僕、そんなこと言つたかなあ」と、とぼけられた。

しかし、恩師のその言葉が私の頭からずっと離れなかった。「自分は一流か？」と問い続け

た。就職して以来システム・エンジニアをやつていた関係でソフトウェア特許を何本か取得した。それでも自分に自信が持てず、五〇歳を過ぎた頃に昔返り討ちにあつた千葉大の人文社会科学研究科に入學し、会社勤務の傍ら経営学の修士号を取得した。

「OBは一流だ！」というのは実はレトリックで、「不断の努力」こそが一流への王道だと婉曲な戒め方をしてくれた恩師は平成二三年三月に永眠した。亡くなる三年ほど前に製本した修士論文を記念にと研究室へ届けたのが最後の別れとなった。今にして思えば、神様は私が生まれた瞬間に恩師のあの言葉を聞かせるために、中大理工学部を私の本当の一次志望校に決めていたような気がする。

そして今、恩師と約束した経営学の博士号を取得するべく某学会に入会し、査読論文の執筆に向けた準備を始めた。恩師の思う壺にはまつてしまった私を、何をやるにも人よりワンテンポ遅い私を、天国から眺めている恩師は、「当分一流にはなれそうにないなあ！」と笑つてい

九死に一生を得て！

—運も実力の内か？—



白井 日出男

経済学部
昭和三六年卒業

“九死に一生を得た経験”の持ち主は、案外いない。私はその貴重な経験を持つ数少ない者の一人だ。

それは私が昭和五五年に衆議院に初当選して間もない昭和五七年の、忘れもしない九月一日の事だった。その日の一番の仕事は「県主催の総合防災訓練」に参加することだった。訓練開始の朝九時に間に合うべく市原市臨海地先に自家用車で向かい、ちょうど蘇我陸橋の中央にさしかかった時、一台のトラックとすれ違った。

次の瞬間、トラックの荷台から長さ約四〇センチもあるかと言う鉄の棒が、降ってきた。その棒は矢のように真っ直ぐ私の車を襲った。そして運転手側のガラスを押さええている幅僅か一センチほどの金属部分に刺さり、撥ねた。一瞬のことで、正確に状況を把握出来なかつたので、トラックはそのまま千葉方面に走り

去った。急ブレーキを掛けて止まり窓枠を見ると、スチールの部分がものの見事に捲れあがっているのが確認できた。

走行中に落下した積み荷が車の前や後ろに落ちた：といった経験はありそうな話だが、自分の乗る車に直接ぶつかってきて、しかも僅か一センチ幅のガラス止めに刺さるということはそうざらにあることではない。

少し前にずれば運転していた秘書に当たり交通事故を起こすか、もし少し後ろにずれば、私の身体にグサリと刺さるかだったろう。その時思ったのは「これはオカルトだ！」ということだった。

自宅に帰ってから、まだ両親も健在で我が家には“仏様”はいなかったが、仏壇に手を合わせて無事を感謝した。もしかしたら衆議院当選一回の白井日出男の名しか残らなかつたかもしれないのだから…。

振り返ってみると、私の議員生活は幸運の連続だったと思う。最初の幸運は、最初の立候補で落選し、井上先生に「白井君、君はまだ衆議院議員に当選はしていないが、お父さんには大変世話になった。だから現役の議員と同格の扱いをするよ」と温かい言葉を戴いて、懸命に井上先生の参議院議員選挙応援をしている内に、七カ月後の衆参同日選挙となり、初当選すること

が出来た。

二度目の大臣就任の時も、当初、防衛庁長官候補として名前が挙がったが、潜水艦などお事故で防衛庁長官を引責辞任した、当時自民党の防衛族トップの瓦力先生の防衛庁長官再任が決まり、一度は名簿から消えた。だが、組閣発令の直前、東海村の原発事故が発生し、組閣が一週間延びた間に、法務大臣就任が急転直下決まった。

私は役職について獵官運動はしないと決めていたが、それでも多くの仲間の温かい支援で、自民党総裁選挙管理委員長として、三名の自民党総裁の誕生に立ち会うことが出来たし、名誉職である裁判官訴追委員長を務めることが出来た。

現在七四歳。人生を振り返って“運も実力の内さ！”とつぶやく昨今である。

【経歴】

昭和五五年より衆議院議員当選八期。防衛庁長官、法務大臣を務む。

大学と私



山口 義夫

商学部
昭和三八年卒業

私は昭和十一年、船橋市で生まれ、小・中・高と過ごし、国家公務員初級職員採用試験（税務職）で東京国税局に入局し、最初の一年間を当時千葉市登戸にあった全寮制の国税庁税務講習所普通科東京支所で法律・経済・簿記・税法の初歩を大学の先生方から学んだ。商法は戸田修三先生で、後に中大学長になられた。税務講習所を卒業した私は、館山税務署直税課に配属された。

着任早々、先輩から歓迎会をやるからと言われ、同期生四人で行った。六畳間の卓袱台には合成酒の一升瓶と数個の茶碗が置かれ、出前のラーメンがつまみであった。その先輩の親戚には何人かの有名な学者がいるとかで、その部屋には書籍が山のように積まれ、俺は大学を落ちて、この道に迷い込んだので、来年はもう一度試験を受けるといい、本当に東大に合格して館山を去った。こんな先輩とは身分が違うと思っただが仕方がない。

私の親父は戦後のどさくさで行方不明となり、生家は競売され、大学は無理と考え、しばらく館山でのんびり遊んでいたが、夜学ならと思い、通学の便が良く授業料も安い中央大学商学部を選んで四年遅れて中大の入試に合格した。だが、館山からは通えない。最初にでた九月中旬の講義日に、教授から君は今まで全休で学生名簿から削除したと言われた。都内に転勤したのはその年の七月一日であったからである。

当時は六〇年安保闘争の時代で、毎日校庭に集まってデモに参加し、樺美智子さんが亡くなった夜も国会議事堂の周りで、氣勢を上げていた。もちろん何かあれば、税務署を首になっていたかもしれない。

稲垣富士男教授の会計学ゼミを専攻し、アメリカの会計雑誌の短い論文を翻訳したことがある。卒業の翌年の結婚式の媒酌は稲垣先生ご夫妻に頼んだ。

その後、都内の税務署から東京国税局査察部へ配置換えとなり、選抜されて国税庁税務大学校の研究科生として一橋大学に派遣され、中央大学附属高等学校のとなりであった武蔵小金井の公務員住宅に住んだ。稲垣先生宅は三鷹駅から近く、年始には夫婦で訪問した。その後、現在の四街道市に家を建ててからは少し疎縁となった。

八幡税務署長で退職し、一橋大学・中村忠先生の縁で、千葉大学法経学部の非常勤講師として勤めながら税理士を開業した。稲垣先生は酒を嗜まず、教え子が始めた稲垣会、ゴルフは通算百回を超え、死ぬまで出ると、開腹手術したところを皆に見せながら、二年前まで元気でプレーをしておられた。残念なことに、平成二四年夏、稲垣先生は満八七歳で天寿をまうされた。昨秋、グラントヒル市ヶ谷で「稲垣先生を偲ぶ会」をゼミの教え子が主催し、稲垣先生の奥様に対して、私ども夫婦もお悔やみを述べた。

私は千葉大学を六五歳で辞めた後、文京学院大学大学院経営学研究科税務マネージメントコースの非常勤講師となり、講義は七五歳で終了したが、別途、継続して修士論文の審査の副査を依頼され、中央大学のほか、慶応や早稲田をでた院生の論文を読み、口頭試問できるのが、喜寿を迎える老人の生きがいでもある。

【現職】

総務省自治大学校講師・東京税理士会支部研修会講師・全国ふるさと大使連絡会議・代表理事・「ふるさと音頭」(全国ふるさと大使連絡会議イメージソング)作詞・山口義夫、作曲・入船敏夫、歌唱・原田悠里(北島音楽事務所)・ふるさとテレビ顧問・かんもん北九州ファン倶楽部会員・北九州市ひまわり大使・秋田県にかほ市ふるさと宣伝大使

「養生訓」に学ぶ



荒 孝一

法学部
昭和四一年卒業

私が県庁に在職中、さる財界の重鎮（八六歳）に「長生きの秘訣は？」と問うと、「寿命だよ」と一笑に付された。ご尤もである。一方、最近、九六歳の誕生日を迎えたA氏にお会いした。七〇代顔負けの元気に驚く。さぞかし健康管理には特別の工夫があるのかと同じ質問を投げかけた。すかさず「怒るな、転ぶな、風邪ひくな！」との返答。なるほどと納得。また、B氏は「食い気、色気、洒落気！」。これも納得。正解はないとしても長寿の方々は健康管理を怠らない。

私は、以前から健康診断のたび、メタボにひっかかる。つまり、エネルギー摂取が消費を上回るとは百も承知なのだが、思うようにいかない。体重を増やさないことが精一杯といった具合。

ところで、メタボを効果的に減らす方法があるという。池田義雄氏（日本生活習慣病予防協

会理事長）によると、「一無（禁煙）、二少（少食・少酒）三多（多動・多休・多接）」だそうだ。顧みると、私は、飲食は過剰気味だし、歩かず車移動、加えて、睡眠不足。となるとメタボに止まらず病魔に冒される羽目にもなりかねない。

江戸時代の儒学者・貝原益軒は、その著「養生訓」の冒頭に、「人の身は、天地父母のめぐみを受けて生まれ、また養われたるわが身なれば、わが私の物にあらず。（中略）天年を長くたもつべし。これ天地父母につかへ奉る孝の本也。（中略）況（いわんや）大なる身命をわが物として慎まず、飲食・色欲を恣（ほしいまま）にし、元気をそこなひ病を求め、生付（うまれつき）たる天年を短くして、早く身命を失ふこと、天地父母へ不孝のいたり、愚なる哉（かな）」と述べ、更に、「人の身は百年を以て期（こ）とす。上寿は百歳、中寿は八十、下寿は六十なり。六十以上は長生なり。世上の人を見るに、下寿をたもつ人少なく、五十以下短命なる人多し。（中略）これ、皆、養生の術なければなり」と述べている。

益軒は、人生五〇年の時代に人生一〇〇年を目指せ、そのためには養生の術を守ることが大切だという。

当時、現代の医術水準下にあったならば、益軒は間違いなく上寿を全うしたであろう。

自分の生命の尊さを知り、養生に努め、人の道を守り、存命の喜びを楽しむことこそが、人生で一番大切であると説く「養生訓」は、長寿社会の今日においてもその価値に変わりはない。一七二四年益軒没後三〇〇年を経た現代においても、この書から学ぶことは少なくない。座右に置きたい一冊ではある。

私と千葉県支部

吉田 卓

法学部
昭和三二年卒業



私は昭和七年に、千葉県君津郡横田村に生まれました。現在は袖ヶ浦市になっています。農家の長男に生まれたので、進学したいと言うと、君津農林学校に入れられました。その後、旧制木更津中学に転校し、新制高校となった同校を卒業し、中央大学法学部に入学しました。入学当初は、自宅から御茶ノ水の学校まで通いました。三時に起きて、朝昼晩の弁当を持って、ま

ず自転車で一時間かけて姉ヶ崎駅まで行き、それから汽車に乗り、総武線の電車に乗り換えました。その後、都内の親戚に厄介になり、ついで、船橋に友人らと家を借りて住んだりしました。学生自治会の役員をしたり、生協の理事になったり、さまざまアルバイトをして、とにかく自活しながら学生生活を送っていました。

私が水島先生にはじめてお会いしたのは、中大法学部の先生の信託法の講義です。後年、水島先生に「私は卓さんに単位をやらなかったね」と言われました。アルバイトと学生自治会、そして、保守系政治団体の青年部の活動などで忙しかった私は、講義に出る時間はあまりなかったのです。それでも、千葉県千倉出身で夜間部に通われていた日比野臣三郎さんや、日比野さんと一緒に、堂野達也先生の銀座の事務所働いていた阿部三郎さんなど、多くの方と知り合い、なかなか面白い学生生活を送りました。阿部さんはその後、船橋の方をお嫁さんにもらいます。

船橋にいた頃、同じように千葉から通う現役の中大生たちを集めて千葉県人会を作りました。千葉銀行に勤めるOBにお願いして船橋駅前前の同行のホールを借り、会の発会式をやりました。一〇〇人以上が集まりました。当時も、千葉からは多くの学生が中大に通っていたの

です。そして、そういう活動から委員会という組織を知り、千葉県支部にも顔を出したりしていました。

卒業した私は、部屋を借りようと入った不動産屋で、その主人との奇妙な出会いをきっかけに不動産業界で働くことになりました。東京・赤羽の店に勤め、その後、駒込の店を任せられます。不動産業以外の仕事も手がけ、また、学生時代以来関心が強かった政治の世界にも首を突っ込んでいました。ビジネスでは良い時期もありましたし、手痛い失敗も経験しました。ただ二〇代から三〇代は、都内で忙しく働いていましたから、千葉県支部とも少し疎遠になっていました。

そんなある日、後にそこの副社長になる石村起一先輩から、「今度、千葉に百貨店を出すことになったから手伝ってくれないか」とご連絡をいただきました。そごうトップの水島先生が、私が千葉の出身であることを覚えておられたようで、それを石村さんに伝えられたのでしよう。私は張り切って、千葉の商工会議所の事務局長をしている叔父にそのことを伝えるに行きました。すると、すでに千葉の経済界ではそごうの進出は知れ渡っていて、そのための手続きもあらかた済んでいましたが、水島先生のおかげで、私は千葉の経済界の各方面に方々

に会うチャンスをいただきました。私は、先生から与えられた機会により、ビジネスはもちろん、大変多くの貴重な人間関係を得ることができました。先生はいつもそのようにして、周囲の人々を引き合わせ、意欲ある人のビジネスや人脈作りのために力を貸してくれるのです。

そのような中で、先生から前述の「千葉県の中央大学同窓生の結集」というお考えが語られ、私たちはそのための実務を担ったわけです。当時の私は、若手でした。

あれから四〇周年が経ち、私は千葉県支部の支部長を拝命しています。どのようにすればこの支部を、充実した形で若手に引き継いでもらえるのかを、日々考えています。

登山と私

滝沢 健

経済学部
昭和三十一年卒業

母校中央大学を卒業してから五六年。千葉に住んで四一年。千葉都民から千葉県民になって久しい。千葉は首都圏の中でも気候が最も恵まれていると思う。災害も少なく温暖。故郷新潟で高校まで過ごした雪国育ちの私はいつも感謝

している。特に冬場の半年は。趣味の登山のト
レーニングには大変良い。

登山は高校の頃夏休みに佐渡のドンデン山
にキャンプに行った時から始まる。大学の頃は
ハイキング。会社勤めとなり本格登山は年に一
回位。あとは年に数回のハイキング。結婚後は
仕事も忙しくなり三〇代半ばで本格登山から
遠ざかる。そして六二歳で妻（五五歳）の死。
シヨックと淋しきで昼は仕事で忘れても夜が
辛かった。そこで登山を思い出し地元・千葉の
登山サークルに入る。六五歳で本格登山にも参
加。始めはきつくて大変だった。その後「ツアー
登山」というツアーを知り参加する。若い頃は
殆ど単独登山。たまに友人やグループと行くだ
け。ツアーに参加すると山仲間の話題は随筆
家・深田久弥の「日本百名山」。いくつ登った
かと。出版当時本は買っていたが殆ど読まず。
今迄に登った山は約二〇。八〇位残っている。
無理と思ったが年を経るに昔を思い出し（自称
「カモシカ」）、私より一〇歳や二〇歳も若いツ
アー仲間から歩くのが速すぎると云われるよ
うにも。年間三〇近くの山々を登ることも。六
年で百名山を登り終える。そして七二歳から海
外の山に挑戦。一般的には登山を終える年令で
ある。以下年別に登山歴を記入する。（海外登
山のみ。）

二〇〇六年（七十二歳）

・キナバル山（四、〇九五m）マレーシア最高峰、

ボルネオ島

・大姑娘山（五、〇二五m）中国四川省、四姑

娘山連山

二〇〇七年（七十三歳）

・キリマンジャロ（五、八九五m）タンザニア、

アフリカ大陸最高峰

・カラパタール（五、五四五m）ネパール、エベ

レストの展望台

二〇〇八年（七十四歳）

・アバチャ山（二、七四一m）ロシア、カムチャツ

カ半島の活火山

・玉山（三、九五二m）台湾最高峰、日本統治

時代「新高山」

・雪山（三、八八六m）台湾第二の高峰

・雪岳山（一、七〇八m）韓国第三の高峰、北

朝鮮国境

・北漢山（八三六m）韓国ソウル郊外の名峰

二〇〇九年（七十五歳）

・漢拏山（二、九五〇m）韓国最高峰 濟州島

・老姑壇山 韓国智異山系

・シナイ山（二、二八五m）エジプト、モーゼ

十戒、聖山

二〇一〇年（七十六歳）

・ウィルヘルム山（四、五〇九m）パプアニュー

ギニアの最高峰

二〇一一年（七十七歳）

・オートルート・トレッキング ヨーロッパ山

岳リゾート・シャモニからマッターホルンの

麓ツェルマットまで七日間、連日三千m前後

の峠越え

・ファンシーパン（三、一四三m）ベトナム最高峰



2012年6月17日
ツブカル山頂にて

二〇一二年（七十八歳）

・コジオスコ山（二、二二八m）オーストラリ

ア最高峰

・ツブカル山（四、一六七m）モロッコ、北ア

フリカ最高峰

二〇一三年（七十九歳）

・タバナ・ントレニャーナ（三、四八二m）レ

ソト王国、南部アフリカ最高峰

以上

この登山に備えての準備として、毎日二万歩
前後歩いています。

昭和天皇・皇后両陛下 を行川アイランドにお 迎えして



中村 芳男

商学部

昭和三二年卒業

昭和五九年二月二日から二四日にかけて
天皇・皇后両陛下は南房総にご旅行の報が勝浦
市長からあった。そのコースは太海フラワーセ
ンター、鴨川シーワールド、鴨川グランドホテ
ルに泊まり、その翌日は勝浦海中公園、勝浦裁
培漁業センター、勝浦三日月ホテルに泊まり、
翌日帰京という予定であるという。行川アイラ
ンドは何故外されたのか問い直したところ行
川は倒産会社だから陛下に失礼にあたるから
外したと云われた。

それはないだろうと市長につめより、私の力
でお立ち寄り頂くよう最善を尽くしてお願い
したいがどうかとお話したところ、どうぞ精
一杯やってみなさいと申された。それから猛運
動を展開した。皇宮警察に勤務しておられた鈴
木富美雄氏にお願いして入江相政侍従長に直

接面会できるようにご紹介頂き、陛下の関心のあ
る動物鳥類のアルバムを二冊つくり、入江侍従
長にお渡しして機会があったら陛下にご覧に
なっていただけのお願ひした。また、倒産
会社にはお立寄りできないと伺いましたが、ど
うでしょうかとお尋ねしたところ、そんな差別
はしませんと申されたので益々意を強くした
次第です。

それから半年ぐらい経った頃、千葉県知事の
もとへ宮内庁から行川のフラミンゴシヨウやア
ノア（水牛の元祖、日本ではここだけ）が見た
いと申されているから行川もコースに入れてく
れるよう連絡があった、と勝浦市長から知らさ
れた時は飛び上がらんばかりに喜びました。

さて、行幸啓の日が近づいてくると毎日のよ
うに宮内庁、皇宮警察、県知事、県警本部の高
官が打合せに訪れ、その任務の重大さに夜も眠
れぬ日が続いた。行川アイランドは広すぎて警
備に最も苦労するところだと云う。

行幸啓の日程は二月の最も寒い季節であり、
フラミンゴシヨウのご観覧席は野外であるの
で陛下に風邪をひかせてはならないと、無い知
恵を絞って陛下が御付きになるテーブルの下
に炬燵用の赤外線ヒーターを足元を暖めるよ
う斜めに取り付け、テーブルクロスの上に板を
張りその上に上等のテーブルクロスをつけて

風があってもテーブル内は暖がとれるよう配
慮した。両陛下のお座りになる椅子は寸法が決
まっけて三越家具部の特注で制作した。（一
脚二〇万円ぐらいと記憶している）

前日まで好天だったのが、当日は台風まがい
の強風が吹き荒れて、雨は横殴りに降りしきつ
た。その中を陛下はご自身でこうもり傘をさし
皇后様を気遣いながら静々と赤絨毯の上をお
進みになりテーブルに御付きになられた。その
時テーブルの内部がほのかに暖かったので両
陛下は大変喜んでおられたと翌日侍従から聞
かされ大変光栄に思いました。



行川アイランドでフラミンゴシヨウをご覧になる両陛下にご説明する中村氏

陛下は動物植物に造詣が深い方なので専門的な質問があっても答えられるよう一所懸命勉強したのですが、ご質問は何もありませんでした。宮内庁では私の経歴は調査済みで、専門家でない人には恥をかかせないように配慮してくれたものと思っております。本当に心の優しいお方だとしみじみ思います。

中央大学学生会千葉県支部は同窓生の憩いの場です。いつまでも楽しい会でありますようにお互いに気配りすることが肝要ではないかと思えます。

中央大学と私



芦村 敏徳

経済学部
昭和四五年卒業

私の出身地は、鹿児島市から南へ五五二キロメートルの距離に位置する、沖永良部島であります。人口一四、〇〇〇人、周囲五五・八キロメートル、面積九三・八平方キロメートル。澄みきった青い海と空、目映い太陽、年間平均気温二二度という温暖な気候に恵まれ、四季

を通じてエラブユリ、フリージア、グラジオラス等の熱帯、亜熱帯の花々が咲く、隆起サンゴ礁の島であります。

東洋一と言われる鍾乳洞や根廻り八メートルの日本一のガジュマルの木等があり、観光客も多くあります。

沖永良部島出身の著名人としては、昭和期の実業家保野健輔氏がおられます。中央大学経済学部卒、コロンビア大、ベルリン大に留学ののち、飯野海運(株)に入社し、後に社長になられた中央大学南甲倶楽部初代会長、同倶楽部名の命名者です。

私が中央大学へ入学した動機は、兄が中央大学法学部出身だったので、大学要覧とかに目を通して、質実剛健の校風や兄の話を聞いていたからであります。

経済学部を選んだのは、兄の学部に行き兄の後塵にされたくないからです。

昭和四一年に中央大学に入学しましたが、全国的に大学紛争最盛期で、中央大学も授業料値上反対、新学生会館の管理運営を学生に任せるとか、正門裏門各教室をバリケードで閉鎖し、長期間授業は出来ませんでした。従って、レポート提出で期末試験に代替する等が当たり前でした。

卒業式も無しで、学部窓口へ学生証を提出し

て、卒業証書と物々交換の味けないものでありました。(タイムスリップ二五年で、多摩校舎で卒業式をして戴きました)

在学中は人間を重視する学問として水野朝夫先生の人的資源論を専攻しました。就職は、国民の生命、財産を守ることを使命とする東京消防庁へ入庁し、三四年間勤務し、三分の二は火災予防業務「消防同意・許認可・違反処理」、三分の一は消火業務・震災を踏まえた防災業務及び精強な部隊育成業務に従事しました。

在職中は、東京消防庁白門会に加入し、中央大学の絆は消防総監はじめ温かいものがありました。

定年後は、千葉県支部へ加入し、毎年恒例のホームカミングデーに参加する等、千葉県支部の副幹事長として微力ながらお手伝いをさせて頂いています。

中央大学に入学したからこそ、ご先輩、同僚、後輩のご指導を賜わることが出来ました故、今日の私があるものとして常々感謝致しております。

【経歴】

東京消防庁OB
中央大学学生会協議委員
学生会千葉県支部副幹事長

絵を描くよろこびと長寿



猪俣 正栄

法学部
昭和三六年卒業

去る二〇一二年二月七日の日経夕刊に京都府立医科大学長が「抗加齢を学ぶ」と題した一文を書かれていました。内容は、ピカソやシャガール、ミロ、上村松篁、東山魁夷の名画家はそろって長生きで高齢になっても創造的な仕事を続けました。絵や手紙で脳を活性化させ老化を防止しようとの呼びかけです。

私は、内部監査という特殊技術がありましたので日航に三七年、内外の関連企業に請われて一五年勤務しましたが、七五歳でその職を辞し、これまで余暇に勉強してきた絵画の世界に専念することにしました。

絵を描くことが如何に人生を楽しく、生き甲斐を感じさせ、健康になるかということをも身近な方々に力説したいと思っています。

まず、絵は誰もが描けるし、どんな絵でも皆いい絵なのです。絵は写真ではなく、良いところ取りをする絵空事の産物で、それを見る人は主観で見るからなのです。

ただ、いろいろな絵、即ち具象絵画か、抽象絵画かの問題はありますが、趣味としておやりになるのであれば、最初はまず具象から入り、何でも自由に描けるようになったら、心象や、超現実などの抽象絵画に進まれるのが一般的かと思えます。

昔から坊主と絵描きは長生きすると言われていますが、描く場所を探すのに時には山野を駆け巡って構図や色を考え、手や指の筋肉と目の視覚神経を使うのですから、脳の細胞をより活性化出来ると思います。そして思った通りの絵が完成したら、人にも見て貰い、飾ってみたくなることは自然であり、気分も高揚します。これこそが健康の源となるのです。(お陰様で、今のところ何の薬も飲まずに、どこも悪いところはありません。)

大体スケッチを入れて三〇〇枚ほど描きますと、人真似ではなく自分なりの絵が描けるようになります。一、〇〇〇枚描くうちには大きな公募展にも出せるようになると思います。

現に、何の趣味も持たずに仕事を終えて困っていた友人に一、〇〇〇枚を目標に描くことを勧めたら、七年間で一、一〇〇枚も描いたそうです。その結果、いろいろ大きな公募展で受賞するようになったと同時に、今も元気に活躍しており、会うたびに感謝されています。

私も冒頭の先達を見習って白寿が超えられるように目標を立てている次第です。

【経歴】

日本航空(株) 37年勤務
上海日航ホテル 8年勤務
(株)JALホテルズ 7年勤務



花島公園(花見川区)

卒業後の私の人生



吉田 明

経済学部

昭和四〇年卒業

卒業して四七年、あつという間でした。大手スーパード勤務時代、脱サラ失敗、建築歩合セールスマン時代、不動産、賃貸管理業に出合い会社設立、三七年間黒字、脱サラ成功現在に至る充実人生の時代、三つに分かれます。

学生時代はバイトとマージャンに明け暮れ、あつと言う間の中大五年間でした。法学部への転部試験に二度失敗、英語力と国語力の不足が原因でしたが、楽しい五年間でした。

大手スーパード時代は朝早くよりほとんど年中無休、一所懸命働きました。この経験が現在の脱サラ成功の基になっているような気が致します。

結婚し子育てと脱サラ失敗の時代が重なり一番苦しい時でしたが、社長への夢を見続けた楽しい時もありました。千葉駅の裏、弁天小学校の近くに二〇坪ほどの店舗を借り、大手スーパードと同じ方法で仕入れ販売を行ったが結果は散々でした。経営計画が悪く、売上が伸

びず、銀行に相手にされなくなった。波乱万丈の人生の始まりです。子供が三人生まれ、食べるため、夢中で建築歩合セールスで働いたが勤務先が次々と倒産の憂き目に会ったのも今考えると建築不動産のノウハウを身につける事に役立ちました。

スーパードでの私の成功体験は実力ではなかった。経営計画、お客様第一主義、社会貢献等、経営者の姿勢が社員である私の力を十分発揮させたのです。地域密着、小規模経営、お客様、社員を大切にされた経営で勝負しようと決意しました。妻に細々と経営を任せていたミニ・スーパード吉田商店を創業より六年で閉店整理

し、(株)明日香興業を昭和五二年創業登記しました。建設下請け、土木ブロック工事、家屋解体、内装工事、不動産売買管理を営業品目に選び、三名での再出発でした。下請け職人にも恵まれ、昼も夜も懸命に働きました。建設会社の下請けは思ったより大変でした。見積もり請求で値切られ、集金で不渡り手形を掴まされ、散々でした。明るい兆しも出てきた不動産、賃貸、管理の中で、私の人生の運の良さが感じられる事件が発生しました。売上の多くを稼いでいた工事部長が、大手建設会社所長と組み、職人を引き抜き独立したのです。初めから出直しますがこれが良かったと思います。下請け仕事

はやめよう。末端のお客様に的を絞る、不渡り未収の無い現金商売に徹しよう。不動産業に絞ろうと考えました。第二次石油ショック後の不動産大不況も幸いしました。不動産が売れないのです。社員を女性中心に、昼は物件の案内、夜は家賃の取り立て物件管理です。お金が少し貯まると頭金にして、中古アパートマンションを買って次々と賃貸しました。借金も増えましたが、家賃も増えた。会社も(株)明日香ホームと名前を変え、社員も一三名、中小零細企業としては、まあまあ。売上も収入も三分の二は家賃及び管理の安定収入、残る三分の一を皆で売れば良い。

今振り返ってみると私の人生は運のよい人生でした。経理に明るい銀行出身の妻と仕事ができること。良い社員とお金に比較的恵まれたこと。大変な建設下請けの仕事を当時の部長が持つて独立してくれたこと。何より徹頭徹尾現状を受け入れ、プラス思考で判断して経営し続けた事が良かったと思います。

現在の会社は中学、高校、大学の友人の溜り場になり、毎日が同窓会であり、多くの友人との交流を人生の楽しみの一つにしております。一方で解決すべき課題もあります。仕事から卒業出来ないのは、女性中心の会社のため後継者の育成が未解決である。家賃及び経営を増やす

ためバブル期も含めてかなりの借入をした。特に老人介護の建設設備を作り賃貸したが、借主が倒産したので自分で会社を作り経営を手がけたが失敗した。家賃収入物件はバブル期以前の不動産不況の時買収したので金額は多いが毎年順調に借入は減っている。商売が下手なので不良在庫が多く、固定資産税が膨れ上がり毎年税金ばかり払うこと…などである。

残念ながら現役卒業が先に延びてしまったのです。お金も体も時間も忙しいのです。生涯現役の人生が私に与えられた天命であるような気がします。

中大白門千葉県支部会も欠席ばかりで皆様に御迷惑をかけ申し訳ない。健康状態も問題だ。四二歳のとき発病した糖尿病との付き合いである。毎月一回の通院や朝夜各一時間のウォーキングは何とかクリアしているが、食事制限が難しい。朝寝坊、温泉旅行、酒、グルメの食歩歩き等、毎日が日曜日の楽しい人生を送りたい。そんな夢の人生は私には来ないかも知れません。

【経歴】

- (株) イトーヨーカ堂、六年
吉田商店、六年自営
- (株) 明日香ホーム、三七年自営

第一六代当主、 そのルーツを探る



椎名 薫
法学部
昭和三八年卒業

私は生まれも、育ちも市川市です。ただし、学校は小学校を除き東京へ通学していました。居住地は市川インター近くにありますが、江戸時代は行徳領稲荷木村、その後明治二三年の町村合併により東葛飾郡行徳町大字稲荷木となり、昭和三〇年には合併で市川市稲荷木へと変遷しています。そして、先祖代々の出身地でもある現在地に住んでいる根っからの千葉県人で、椎名家一六代当主となっています。(ただし、第一六代は先代からの言い伝えで確証はない)

私の先祖は、市川市本行徳にある菩提寺・淨閑寺の過去帳によれば、一番古い記録では、寛文五年(一六六五年)徳川家綱の時代だそうです。今から三五〇年くらい前の方です。そして、現在地の数軒先には、当家の本家、および分家がありますし、寺も一緒に墓石も隣にあります。その後、何代目かの先祖「椎名茂右衛門」

(代々同名で継嗣されていた)は、江戸の武家屋敷の馬糞等を船で運び農家に売っていた肥料商で、かなりの資産家であったといわれる。その証かどうかわかりませんが、当家の先祖が建てたものといわれる、三メートル位の石地蔵が近所のバス停の所にあり、現在は『延命地蔵尊』と称されています。

この石地蔵は今から二八五年前の享保二二年(一七二七年)徳川吉宗時代に建立されました。石地蔵の裏側には、『施主 稲荷木村 椎名茂右衛門』他関係者の名が、前面には年号が刻されていて、何代目かの先祖が建てたものに違いないと思われます。もともと、この石地蔵は当初は、行徳街道と国道14号の交差点に設置されていたもので、付近一帯で追剥ぎが発生して、人命の災難にあつたりしたため、その災難除けと供養、さらには道標として建てられたものといわれております。

ところが、この地蔵尊が昭和六〇年都営地下鉄10号線(現新宿線)の本八幡乗り入れに伴い、付近一帯が開発されることとなり、移転せざるをえないことになりました。市川市及び地元自治会では、移転先がなくて困っているとのことであったので、椎名家第一五代当主(椎名茂)は「移転先がなければ当家で引き取り安置する」と申し入れ、関係先との協議を重ね

た結果、最終的には権名家個人の敷地より公共性のある場所の方が良いのではとのことで、現在地の行徳街道の「一本松バス停留所」脇に遷座されたものであります。そして、当時の当主は、その建設の由来を地蔵様の左わきに建立しました。『吾れ今日無事に在るを祖先に感謝し、この由来を後世に残さんと本碑を建立す』と自書されています。

なお、延命地蔵尊建立者の子孫から宇宙飛行士（これから乗船予定）が誕生しました。

中央大学学員会 千葉県支部の皆様へ



法学部
昭和六十二年卒業

門山 宏哲

昭和六十二年卒、今年四九歳になります。

中央大学学員会千葉県支部の会合は、地元で活躍されている経験豊かな諸先輩方のご意見をうかがったり、同輩の皆様と情報交換をしたりできる本場に大切な場で、参加するたび貴重な勉強をさせていただいております。毎回準備

にお骨折りくださる役員の皆様にご心から感謝申し上げます。

私は、地元千葉で一九年前弁護士をしてまいりましたが、二年前の公募で自民党千葉県第一選挙区支部の支部長に就任し、このたびの選挙で衆議院議員となることができました。

これまで、弁護士として活動する中、依頼人の正当な権利を実現することを通して、私がライフワークとしていた「社会正義の実現」に努力してきましたが、一弁護士としては政策や法制度自体を変える力は持ち得なかったこと、また、今の日本の外交、経済状況、不公正な実態、「自律」意識の欠如などの深刻な状況を見て政治に危機感を抱いたこと等が政治家を志望した動機です。

しかし、なにぶん政治活動ははじめてのこと、いろいろな方にご指導、ご助力いただきながら支部事務所を開設し、この度の選挙ではほんとうにたくさんの方々に支えていただいて、なんとか政治家としての一步を踏み出すことができました。中央大学学員会の皆様には、貴重なご指導・温かいご支援をいただき心より感謝申し上げます。

皆様のお心にお応えできるよう、初心を忘れることなく、ぶれることなく、全力で活動してまいります。

すべての国民の皆様が誇りをもって将来にわたり安心して生活できることを目指し、誠心誠意尽くしてまいりたい所存でございます。

中央大学学員会の皆様には、今後ともなにとぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

【経歴】
弁護士、門山綜合法律事務所主宰、平成二四年衆議院選挙初当選

親子三代表彰を受けた それぞれの中大への思い

川島 宥

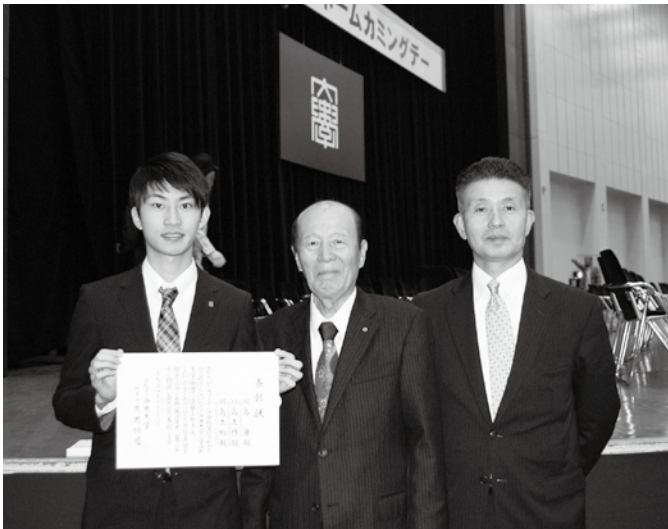
法学部
昭和二六年卒業

川島 正博

経済学部
昭和五五年卒業

二〇一二年一〇月二八日の母校のホームカミングデーにおいて、私たち川島家、宥（八四歳）、正博（五四歳）、そして正樹（二〇歳）は、親子三代表彰をいただき、表彰式に臨みました。

私（正博）と父・宥は千葉県山武郡横芝光町に住み、昭和二八年設立の両総観光を経営しています。息子の正樹は公認会計士を目指し東京・目白から通う経済学部の二年生です。



父・宥は、戦時経済下で家業が統合されて困窮している中、昭和二〇年（一九四五年）に入學しました。理由は授業料が安いからで、「確か二三〇円で、それを三回に分けて納付した」と言っています。同じ理由から父は弟、つまり私の叔父にあたる決（昭和三三年文卒）や、妹、叔母の央子（昭和三五年文卒）にも中大進学を勧めたほか、多くの同期生、後輩を中大に誘った「中大ファン」です。現在はともかく、「勉学に励みたいが家計が許さない」苦学生にとって、中大は「うってつけの大学だった」と父は言っています。

私も父の強い勧めで入学し、息子は「祖父と一緒に親子三代表彰を受け喜んでもらいたい」という思いがきっかけで、千葉商業高校で文（日商二級）・武（バスケ）両立に挑戦し、指定校推薦で入学しました。

私が「中大卒で良かったな」と感じるのは、むしろ卒業してからです。大学時代に勉学（経済学部）と運動（バスケ）で培った出会いや縁（それが先輩・後輩、また支部長を務める白門55会（支部長）や南甲倶楽部、そして千葉県支部を通じて、事業経営と個人・家庭の両面で脈々と生きていくからです。中大の縁は、厚くて太いと思います。

父は駿河台で学び、私は駿河台と多摩で2年ずつ過ごしました。父は「多摩は広くて勉強するには素晴らしいところ。でも、大学院はアクセスのいい都心に設けてほしい」と言っており、私も同感です。

最初から多摩の息子は「中大が公認会計士試験の合格者数で全国トップを維持できているのは、多摩という充実した環境があるから。しかし、都心回帰の声も理解できる」と言っています。そして、「中大生ってやはり真面目。それが大きな良さだと感じている」と、親子三代表彰のインタビューで答えていました。

千葉県支部入会にあたり



澤幡 仁

経済学部
昭和三二年卒業

茨城県常陸太田市出身の私は、昭和三二年に中央大学経済学部を卒業し、現在は日本橋に本社を置く運送会社グループを経営し、住まいは東京都江戸川区にあります。学会では江戸川支部に長く関わり、本部の役員なども務めました。

千葉県内には、船橋などに以前から営業所を持っていました。このほど、別会社である柴犬のブリーダー会社の事業所を袖ヶ浦に開設することになりました。これを機に千葉県支部への入会を勧められ、皆様のお仲間に入れていただくことになりました。

入会のお勧めは、吉田卓支部長からいただきました。吉田さんとは学生時代からのお付き合いで、私を学生自治会に引きずり込んだのも、吉田さんです。

吉田さんとは卒業後も親しくお付き合いさせていただき、仕事や人生のさまざまな面で、大変お世話になっています。実は袖ヶ浦の土地も、吉田さんが見つつけてくれました。その土地

に建てる建物については、後地俊夫幹事長が手配してくれた業者も使います。そのような事情もありますから、入会のお誘いは断れません。

仕事面では、今は亡き仁平晃さんの木更津魚市場様とお取引もずいぶん前からですし、吉田さんや水島廣雄先生にもたくさんの千葉県のの學員や經濟人を紹介していただきビジネスをさせていただきましたので、千葉県とは少なからずの縁があります。

そしてそれよりも強く縁を感じるのには、今から五年前の出来事です。田舎の母が癌に冒されたとき、その時代の最も優れた癌治療の医師が、千葉大学医学部病院にいて、その先生を頼って千葉に向きました。幸い母はその先生のお蔭で完治し、その後、十数年、七〇歳を過ぎるまで健康に過ごしました。

いろいろな縁のある千葉県ですが、支部の會員に加えていただいたことを機に、また新たな縁を作りたいと思います。

よき先達、野村さん

藤橋 陽子

文学部
昭和四五年卒業

中央大学の學員会千葉県支部の会合に出席させていただくようになったのは、何年くらい前だっただろうか？

きっかけは、卒業して十数年たったころ、クラス担任だった安川定男教授のお祝いの会が行われ、安川先生の奥様で世界的なピアニスト安川和寿子さんと知己を得たいクラスメイトに誘われていったその会場でたまたま野村淳さんにお会いしたことがある。

野村さんは、私の生まれ育った成田の方で、大学の事務室にお勤めになっておられ、通学の電車でも時折お目にかかることはあった。威風堂々とした体格、ちよつと怖いような風貌からそのころの気持ちとしては、なるべく関わりたくなく、目を合わせないようにしていた。

十数年が経過、安川先生のお祝いの会の会場、たまたま野村さんに声をかけていただいた。

「君は、成田だったね。このような会が行われているからぜひ出席しなさい。いろいろな先輩が出席されるので、君の人生にプラスになるよ」ということでお誘いいただいたのが、当時

千葉そごうの広い会場で行われていた千葉県學員会の総会であった。

男性ばかり、私のようなコムスメ？（数十年前はそうでした）がお話するのとはばかれるような偉い方々ばかり。どうしたらいいか、このまま逃げ帰ろうかと、最初は隅の方で小さくなっていたが、野村先輩は、私を見つけると、すぐに「成田の後輩で…」と、私を引き連れて皆さんのところをあいさつ回り。おかげで、普通だったら私なんぞがごあいさつなんてとても及ばないような諸先輩の皆様と名刺交換させていただいた。

あの野村さんの後輩、しかもこのような会には珍しい女性ということで、皆さんが名前を覚えてくださり、声もかけてくださるようになった。

翌年からは、出席者随一の女性だからと、乾杯の発声をさせていただいたり、受付のお手伝い、懇親会の司会と、諸先輩方に引き立てていただき今日に至っている。

「先達こそあらまほしけれ」と徒然草の一説にあったが、まさしく私にとっての先達は、風貌とは裏腹に実はとても優しく、後輩思いだった野村さん。

その教えをなるべくたどろうと、若い方が出席すると、私の存じ上げている先輩方にご紹介するようにしているが、その中で一番の思い出

は、息子と同学年の県庁勤務のお嬢さんたち3人を引き連れて、水島先生のそごう会長室にお伺いし、梅原龍三郎の絵のそばで、「君は、千葉のお母さんだから、後輩を大事にしなさい」と声をかけていただいたことである。

そのお嬢さんたちも、今は皆良いお母さんになり、お子さんたちとの幸せそうな写真入りの年賀状を毎年送ってくれる。うれしいことだ。

中央大学の学員会千葉県支部は、これからますます、そうした交流の場であってほしい。

歴史ある学舎への 母校愛に思う



大久保 芳一
法学部
昭和四一年卒業

中央大学の創立一二五周年は、二〇二〇年でしたので、もうすぐ創立一三〇年を迎えます。この歴史と伝統のある学舎を卒業し、同窓生が集まり懇談することは、胸襟を開いて学生時代を語り、気楽さと安心感の持てる会合であると思っています。

中央大学学員会千葉県支部も長い歴史を持ち、同窓生が年に数回、集まる活動盛んな支部であることは慶賀の至りです。千葉県支部の会員も多士済々、政界、産業界、官界等で活躍されています。これらの同窓生の方が一堂に集まり懇談し、楽しい時間を過ごせるのも、千葉県支部を支える役員の皆様方の努力の賜物と心から感謝しています。

中央大学の現役の学生、卒業生の活躍を報道等で見聞すると心地よいものです。特に、スポーツなどをテレビで観戦すると自分も中大生の選手になったつもりで手に力が入り、テレビの前で叫んでいることがあります。優れた戦績の場合は晴れ晴れとした気持ちになります。同窓生の皆様も同じ経験をされている方が数多くいると思われれます。

このような自然な気持ちの表れが「母校愛」につながっている絆の一つだと考えています。これらの感情やパフォーマンスは、母校を愛する気持ちや感情が入るからです。自分の日々の喜怒哀楽のなかでも何かある時にふと思いつくのも学生時代のことがあります。私の時代は駿河台校舎でしたが、駿河台下の近辺の飲食店で口角に泡を飛ばし議論をし、校歌を放吟し、他の人から注意や叱責を受けたこともしばしばありますが、今は楽しい思い出になっています。

中央大学の卒業生で公務員になられる方は多く、私も公務員生活三五年で、平成二二年秋の叙勲で瑞寶小綬章を拝受しました。これも中央大学の諸先生及び諸先輩等、多くの同窓生のご指導とご鞭撻の賜と心から感謝致しております。

おわりになりましたが、中央大学及び学員会千葉県支部の発展と会員各位のご健勝とご多幸を祈念します。

私のプロフィール



木村 清
法学部
昭和五四年卒業

一九五二年四月一九日 千葉県野田市出身
一九六八年、パイロットを志し、一五才で航空自衛隊第四術科学校生徒隊に入隊するも、事故による視力の悪化の影響で、子供の頃からの夢であったパイロットの道を断たれ、五年九月で止むなく自衛隊を退官。その後、司法試験を目指し中央大学法学部の通信教育で学びながら、アルバイトで入った水産の世界に興味を持ち、大洋漁業（現マルハニチロ英HD）の子

会社に入社。すしネタや弁当屋、食品などの開発・販売に携わる。

一九七九年、それまでの経験と知識を活かし、二七歳で喜代村の前進となる「木村商店」創業。お弁当・寿司ネタなどの開発・製造・販売、世界各国の海産物の輸入・販売ガリの製造から本マグロの漁獲販売、不動産の販売、カラオケや大型居酒屋の出店など、九〇以上の業種・業態の事業を手掛ける。

一九八五年、株式会社喜代村設立。二〇〇一年、築地場外に日本初の年中無休、二四時間営業の寿司店『すしざんまい本店』を開店。築地をはじめ、産地直送の新鮮で美味しい食材と値段を超えたその質、温かく活気に満ちた雰囲気的人气を呼び、行列の絶えない店として話題を呼び、夕方ともなれば閑散としていた築地場外市場を現在の活況をもたらす、呼び水となった。以後、東京を中心に、神奈川、栃木、福岡、北海道、大阪に出店を続け、二〇一三年一月現在、全五〇店舗の寿司チェーン店を展開中。今後もさらに出店を拡大していく計画で将来的には、日本全国に三〇〇店舗を目指す。「すしざんまい」と言えば、本マグロ。極上の本マグロを求め、自ら世界中の産地や漁場を駆け巡る一方、環境や資源の保護と保全の視点から、新たな漁場の開拓や発展途上国の支援などにも

積極的に取り組んでいる。

また、二〇〇六年、寿司職人の育成と日本独自の寿司文化の継承、発展を目的とした「喜代村塾」を開校。包丁の持ち方などの基本中の基本から衛生学や高度な技術まで徹底的に教える独自の教育・育成方法を採り入れ、短期間で一人前の「すしざんまい流すし職人」を養成。自店での採用の他、海外で活躍する者など、これまでに数多くの職人を輩出している。この他にも、築地場外市場に鮮魚店の直営、魚介類をはじめとした食材の輸入・製造卸・販売等の水産食品事業も手掛けている。

今までやってきた事業も含め「人に喜んでいただけることをやり、みんなで喜びを分かち合っ、明るく・楽しく・元氣よく過ごしていく」。今までもそしてこれから、それを追い求め、常に前に上に、失敗を恐れず突き進んでいく。「夢は必ず実現できる」が自身の信条。

【現職】

株式会社 喜代村 代表取締役社長

我が母校

石渡 哲彦

経済学部
昭和四五年卒業

私が中央大学を卒業したのは、昭和四十五年三月。学園紛争の最中で、卒業式も行われることなく、学友と別れることとなりました。四年間の学びやであった駿河台校舎はその後、千葉から離れた八王子に移転、母校でありながら遠い存在となった印象で一抹の寂しさを感じたのは私だけではなかったのではないのでしょうか。もちろん、母校発展の為には仕方がないことと分かっているのですが。

中大生時代を思い返すと、恥ずかしながら学業ではなく、喫茶店や白門前の定食屋、映画館などに友人達とたむろしていたことが思い出されます。特に、お茶の水界隈にあった喫茶店の中でも、安くて雑然とした「ハイライト」という店に毎日のように通ったものです。(他にも「丘」「田園」「ウイーン」といった店がありました)ですが当時の私には少し上等すぎました)そこでこの会話は学園紛争についての喧嘩腰の議論であったり、恋愛の悩みであったりで、今でも当時の仲間の顔が浮かんできます。

さて、私が勤務する千葉県庁でも各学部の卒

業生が主要なポストにつき千葉県政を担っています。残念ながら、お互いの関係は薄いようです。これは、個人の問題というより地方公共団体は全国的な広がりの方より、また伝統的に高校のつながりの方が深いこと、また伝統的に千葉県庁における人事、登用にあたり出身大学をあまり考慮に入れないといったことが要因ではないかと思えます。

むしろ県庁職員以外の方と、同じ中大出身ということで盛り上がるものが多く、特に、デイズニールランドやデイズニールシーを運営する㈱オリエンタルランドの上西社長、県内に路線を持つ大手私鉄、京成電鉄㈱の三枝社長、政令市である千葉市の藤代副市長と私を含めた四人は中大出身者で同年代ということで意気投合し、日ごろから懇親を深めています。

仕事柄、各方面で活躍する中大出身の方とお会いしますが、初対面でも以前から顔見知りのように盛り上がる事ができます。多くの同窓の方々との付き合い、年を重ねる中で、自分の土台となる部分を作りあげる時間を与えてくれた中央大学に感謝するとともに大学のますますの発展を熱望する今日この頃です。

【現職】

千葉県副知事

「箱根駅伝を強くする会」の 発足と千葉県支部の人々

日比野 臣二郎

経済学部（夜間部）
昭和二十九年卒業

昭和六三年の暮れに、母校の発展と学員の連帯のために「箱根駅伝を強くする会」を設立しようという要請が各方面からあり、私たちは千葉県支部の現支部長である吉田卓さんや長田繁さん、西正巳さんらとともに会の発足に向けた取り組みをはじめた。そして、その会の代表をどなたにお願いすべきかを、まずは中央大学学員の重鎮で、千葉そごうをはじめそごうグループを経営していた水島廣雄先生にご相談した。

運動部のOB会ではなく、卒業生のすべてが結集できる会ということで、水島先生は当時、大阪商船三井船舶の社長をしていた相浦紀一郎氏を推薦された。

そのようにして設立したものの、相浦さんも忙しく、すぐに二代目会長を選ばねばならず、私たちはまた、水島先生に相談した。そして、当時、中央大学学員の中で最も著名な方の人である土屋義彦さんはどうかということ、吉田さんが、当時埼玉に在住した中村泰治さん

を伴って会長就任をお願いしに行った。土屋先生は参議院議長を務めた後、埼玉県知事を務めていたが、私たちの依頼に快く応じてくださった。

この会は発足時から吉田卓さんをはじめとした千葉県支部の会員や関係者が多く参加し、役員や事務局など主要な役割を果たした。私もかつて千葉県から上京し中央大学に進学したので、千葉県出身で支部会員である。また、水島先生はもちろん、初期のメンバーには資金面も含め絶大なご支援をいただいた。

中央大学の「箱根駅伝」での活躍は今さらいうまでもなく、六連覇の偉業をはじめ、過去最多の出場回数と十四回の総合優勝を数えている。多くの中央大学卒業生は、正月早々の母校の活躍に胸を躍らせ、新しい年の活力にまで高めていた。そこで新春の気概を高め、気持ちよく新しい年を意気軒昂としてスタートしたいと願いから「箱根駅伝を強くする会」は設立された。中央大学の駅伝を強くし、常に優勝を狙うチームにしたいと思い、有志が相集い、相語らい、物心両面で駅伝チームを励まし、援助しようという趣旨だ。

土屋会長が就任した翌年、平成八年に総合優勝を果たした。そのときの学員の感激はもとより、そのことによる入学受験者の増加など、箱

根拠伝が強くなることが大学の名声を高め、母校発展に大きな効果があることが証明されている。つまり「箱根駅伝を強くする会」を強くすることが、母校発展の礎となるのである。

ところで私は大正一三年正月五日、千葉県安房郡七浦村に、宮下義雄の三男として生誕した。その後、生家は東京府下南葛飾郡南砂町に転居し、乳牛搾取業を開いた。私は昭和一八年五月に志願し、海軍横須賀海兵団、同航海服務信号兵として入校し、同年一二月に卒業し、第二援支艦隊香港特別隊に派遣され、南支、南方各方面に勤務した。

昭和二〇年八月の終戦後は、九龍で捕虜として過ごした。そして昭和二十一年一月、日本に帰還した。その後は海上保安庁に勤務し、千葉県最南端の野島崎灯台に勤務、東京湾入港の内外外国船舶に発光信号、船名、コールサインを読み、海上保安庁久里浜基地に電話連絡する業務に従事していた。

昭和二五年三月、従弟の石井竹松の中大法学部同期の堂野達也弁護士事務員をしながら中大夜間部に入学することを勧められ、保安庁を退職し上京した。夜間部は昭和二九年三月に卒業したが、欧州経済学の大淵彰三先生、財政学の山口忠夫先生手には大変お世話になった。

昭和三〇年に日比野久子と結婚し、宮下から

日比野姓となった。仕事は、堂野事務所の縁で有隣運送株式会社に入社し、社長を務めた。仕事を引退した今も、靖國神社崇敬奉賛会役員などで忙しくしている。

私が国について思うのは、現在は戦前と異なり徴兵検査がなくなり、加えて少子化の傾向にあるという。できれば自衛官（陸・海・空）のほか、警察官、刑務官等は、男女二〇歳にて徴募し、国民の安全を計る仕事に就かせるべきと思料する。

そして私が母校について思うのは、箱根駅伝に優勝することは、中央大学発展の大きな要因の一つであることは間違いない事実である。そのことを大学教職員、卒業生、在学生のすべてがもって銘ずべきと思料する次第である。



千葉公園蓮華亭

第二の人生はプロ歌手



吉橋 重夫

法学部
昭和三八年卒業

第二の人生といえば、自分の趣味に存分に没頭できることが喜びの一つではないでしょうか。ということがあれば私は「歌」「彫刻」「盆栽」の趣味の世界に明け暮れるべきでした。ところが、私は趣味の一つの「歌」の分野で、夢を実現したというべきか、はたまた狂気の沙汰というべきかプロの歌手としてデビューしてしまっただけです。

退職（平成一九年三月）して二、三か月、家でブラブラして居たところ、予てから付き合いのあった音楽関係者からレコーディングしてみませんかという話があり、高齢社会でもあり後何年かは歌えるなど思い話に乗りました。ただし軽々しく話に乗った訳ではありません。デビューする条件はある程度整っていたのです。まずは、若い時から作詞家にレッスンを受けていましたし、音楽の理論的なこと（楽典）についてもそれなりの人から指導を受けていました。そして、アマチュアとして数々のイベン

トや大会で歌っていました。こんな状況でしたので、仕事が終わったら音楽関係のイベントを自分で企画・立案・実施してみたいという夢と、今までに蓄積された歌うノウハウとテクニクを多くの人に伝える教室でもやってみたいという夢を持っていました。

さて、この2つの夢を実現させるには象徴的な出来事が一つ欲しいと思っていました。

この「象徴的な出来事」がイコール歌手デビューということでした。これにより箔を付けて音楽活動を展開してゆきたいと思ったのです。

さて、このようにして六七歳・公務員出身の異色の歌手としてデビューしました。先ず困ったことはジョークが言えないことでした。中央大学法学部、しかも公務員出身ではジョークとは無縁です。これには困りました。「お前の話は面白くない」「難い」と言われるのです。最近、漸く笑いが少し取れる話が出来るようになりました。やれやれです。

後は体力です。デビューして5年、体力の保持には気を使っています。歌手と言えども体力がなければ声も出ません。そこで、暇さえあれば散歩と植木の手入れをしています。

植木の手入れは木に登ったり下りたり鋏や鋸を使ったりと総合運動になります。幸い農家出身ですので手入れは子供の頃から慣れていま

す。それに屋敷の周りには十分な木があります。こんなわけで大概の日は庭師、残りの日は歌手活動という気儘な日々を過ごしています。

私の趣味としての漢籍



鳥切 春雄

法学部
昭和三五年卒業

昭和五三年、現在地に家を建て広くなったことを契機に書籍を沢山買うようになりました。

裁判所での仕事を終え、ホッとしたところで近くの多田屋書店で「中国の思想」全一二巻を購入したのをはじめとして、論語、孟子、老子、莊子、韓非子、荀子、孫子等諸子百家、詩経、書経、易経（五経）等及び史記、十八史略、三国志（正史）、等歴史書その他仏革命史、仏文学や近世西洋思想に関する書物を含め実に多くの書物を買いました。現在、私の書棚には何百冊もの漢籍が雑然と積み重ねられている（通読というよりは「ツンドク」にすぎないものかも知れません）。漢籍の趣味というよりは素人の遊びにすぎないというべきものです。

しかし、老子や莊子の「無用の用」ということ

もありますが、人生において遊びは必要且つ有意義であると考えます。

それとともに遊びによって人間の人格の幅を拡げることにもなると考えます。

紙幅の関係上それらの内容説明をする余裕はありませんが、その内特に私の好む文言を掛軸として表装したものに限定して若干次に例示すると次のようなものがあります。

(1) 「士ハ以テ弘毅ナラザルベカラズ、任重クシテ道遠シ」
（論語泰伯）

(2) 「富貴モ淫スル能ワズ、貧賤モ移ス能ワズ、威武モ屈スル能ワズ、此才之大丈夫ト云ウ」
（孟子滕文公下）

(3) 「自ラ反ミテナオクンバ、千萬人ト雖吾往カン」
（孟子公孫丑上）

(4) 「桃李言ハザレド、下自ラ蹊才成ス」
（史記李広列伝）

(5) 「天行ハ健ナリ、君子以ツテ自彊シテヤマズ」
（易経乾象）

(6) 「盛年重ネテ来ラズ、一日再ビ晨ナリ難シ、時ニ及ンデ当ニ勉勵スベシ、歲月人才待タズ」
（陶淵明）

（註）

(1) は、士たる者は広い視野と強い意思を持っていななければならない。何故ならば使命は重大であり、道は遙かだからだ。戦前の広田弘毅元首相

の名の出典はこれのようです。

(2) は、どんなに富貴となってもそれに溺れることなく、逆にどんなに貧窮したとしても、志を変えたり理想を失ったりはしない。

権威や武力をもって屈服させようとしても屈しない。これこそ真の男だよ。

(3) は自ら正しいと信じたならば、千萬人が自分と異なる意見であっても断固として自分の信念に基づいて、主張し行動する。国会で議員が引用することが多い。中曽根元首相が国会の演説で国鉄改革等行政改革に関してだっと思ったが「千萬人と雖も吾往かん」という気概を以って断固やり抜く所存であります。」と絶叫していたのを記憶している。

(4) は、桃の花は美しいと、その樹下に多勢の人が集まり、樹の下に蹊ができる。

そのように徳のある人物の下には、呼ばなくとも多勢の人が集まる。成蹊大学の校名の出典はこれであり、史記の李將軍列伝の最後に司馬遷が李広の誠実な人柄を賞賛した言葉を書いたもの。李陵の祖父。

(5) は、地球は太陽の周りを自転しながら公転している。それは一刻も休まない。そのように君子たる者は常に努力を怠らない(自強不息)。

(6) は、広大無限の宇宙に比べ、人間の存在はまことに小さい。「人生は短い。機会を逸せず楽しむべき時は楽しめよ。」(時に及ぶ)というのが陶淵明の本義。従来「少年老易く学成り難

し」と同義に青年に教訓を与えるのに用いられてきたのは作者の本意と異なり、誤用ないしは転用。一世紀ベルシヤの詩人ハイヤームの「ルバイヤート」(四行詩)と相通するものがある。後白河院編集にかかる平安末期の民間歌謡集である「梁塵秘抄」に「遊びやせむとや生まれけむ、戯れせむとや生まれけむ」というのも同様。

(5) は、(6) とは全く逆の発想ですが、若い時は(5)により常に努力を惜しまず勉強すべきだと思ふ。しかし、老境に達した現在は、(6)によつて「今を生きる」という禪の教えるところによつて残された時を楽しむのが相当と思料する。

その点において荘子の説くところはスケールが大きく私の好きな思想家です。

遊びについて触れたついでに、その思想にも言及したいところながら、もはや制限された紙幅をはるかに超えたので割愛せざるを得ない。

唯最後に荘子の「将ヲズ迎エズ、応ジテ感セズ」(不将不迎、応而不感) 荘子応帝王篇を挙げて筆を擱くこととしたい。

吉川幸次郎教授監修の中国古典選によるとその趣旨とするところを「物の去来に任せて自己の主観や恣意にみだされず、去るものは去るに任せて追いかげず、来るものは来るに任せて、ことさらに迎えることをしない。」と解している。

私は「過去はもう終わったのだから追いかけて

も仕方がない。先のことはわからない。当面の問題に今できることを精一杯対応し、後は心に留めない(くよくよしない)というように解したい。それができれば悟りの境地に達したものだといふべきだが、凡人のよくなしうるところではない。しかし心構えとして、そうありたいものと思ふ次第であります。



私の還暦旅行



愛場 政幸

経済学部
昭和五十一年卒業

四年前からヨーロッパ一人旅をしています。特にウクライナには四回行きました。もともとヨーロッパ観光のついでにウクライナに寄ると、ウクライナ人の友人に話をしたところ、友人の案内でウクライナ観光をすることになった。成田を出発してから、一三時間後ヘルシンキに、そこから更に二時間のフライトでキエフ（ボリスピリ国際空港）に着きました。日本から八〇〇〇キロ以上離れたと思うと灌漑深いものがあつた。イミグレーションをすませ、ゲートに出るとウクライナ美人が私を向うかえてくれた。本当に彼女が私のガイドとはちよつと信じられなかった。その日は空港脇のホテルで一泊して疲れをとることに。翌日プロペラ機でクリミアのシンフェロポール空港に、そこからヤルタまでタクシーで二時間。凸凹した道路を一〇〇キロ以上のスピードで飛ばして走るので、正直怖くなった。ヤルタについてリゾートホテルにチェックイン。私の部屋はリ

ゾート内の一番新しい建物であつた。驚いたことにまだ工事中である。日本では考えられないことである。別荘やホテルがほとんど建築中ではあつたが、のんびりしたものであつた。このホテルに一週間滞在した。日本人は私一人みただいである。キエフからヤルタまで日本人らしい観光客には一人も出会わなかつた。観光は第二次大戦中のヤルタ会談が行われた「リヴァディア宮殿」・貴族の別荘・「ツバメの巣」等クリミア観光をのんびり楽しんだ。ウクライナ美人と飲んだクリミアワインが大変美味しく、その時のことが今でも忘れられない。クリミアでは、気候のせいかわ、以前の喘息がなりを潜め、非常に快適であつた。この土地の気候が私の体に合っているかもしれない。翌年の夏もクリミアに保養に行く事にした。二回目のウクライナは、翌年の一月厳寒のウクライナだつた。さすがに寒い。ツンドラ気候は半端ではなかつた。キエフからコサツクの故郷ザポロージェに行つてみた。冬なので、コサツクの乗馬ショーは見られず、コサツクの歴史博物館とダムを観てきた。三回目のウクライナはその年九月、三週間近くの旅行だつた。そのうちの二週間はクリミアで過ごしたのは言うまでもありません。この旅行でコサツクの乗馬ショーを漸く見る事が出来た。

四回目は、まずロシアのサンクトペテルブルグ（旧レニングラード）に行き、世界遺産観光。エルミタージュ美術館では一日では全部観る事ができなかつた。中国人観光客の数にまぶつくり。

キエフでは友人と再会し、またウクライナ人とデートをしてキエフの夜を過ごした。

いままでのウクライナ旅行で感じたことは、ウクライナはロシア文化の中心であり、農業大国であるが、世界最大の貨物飛行機アントノフ AN225 ムリーヤやロシアの宇宙船もこの国で製造している工業国である。それだけウクライナは懐の深い国であつた。





★ 千葉県支部 ★

ゴルフ部会について

それぞれの年齢の方が
元気にプレーを楽しんでいます

近況のみご報告します。
ゴルフ部会は会員(支部)有志による会です。

●年に三回実施しております。

二〇一二年も三月(ヌーヴェル)二十八日、七月一日(ヌーヴェル)、十一月十九日(ヌーヴェル)。

●出席者(参加者)は約二〇名前後です。

昭和二六年卒から平成元年卒までの年齢層です。

幅が広く、それぞれの年齢の方元気にプレーを楽しんでいます。気分の若い方が多いせいか全員闊達で若々しく和気藹々のコンペです。

●場所はこのところはヌーヴェルゴルフ倶楽部で実施しております。

コンペにはもってこいの“むつかしい”“やさしい”の中間で、アップダウンの少ない年配者向きのコースです(特に女性に人気があるゴルフ場です)。

ヌーヴェルゴルフ倶楽部の場所は山武郡大網白里町金谷郷三一五一―一(T E L 〇四七五―七〇―二〇〇二)。東金道路山田インターから約七分です。

●参加について

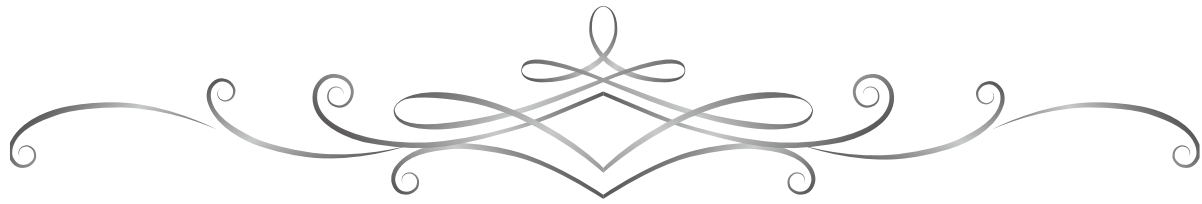
いつも六組二四名まで予約しております。未参加の方も大いに“カンゲイ”致します。奮ってご参加ください。(早い者勝ちです)

●優勝者は毎回変わります。(キャロウェイ方式です)

パーティーはケーキとお茶(コーヒー等)で健康的にやっています。優勝のチャンスは全員にあります。

(仮谷博幸・記)





会員の近況報告

会員の近況報告は平成二五年三月末日到着分までを、編集委員会への原稿到着順に掲載した（一部、ページ割の都合で異動した）。

また、原稿は原則として著者（会員）の執筆のままとしたが、一部、編集委員の責により校正したことをご承知いただきたい。





千葉ふるさと農園

竹内 功

理工学部 昭和四二年卒業

清水建設で三六年、協力会社で一〇年、今年の三月で四六年間の勤務人生となり、六月には七〇歳になる。元氣一杯現役勤務続行中です。OB会の諸行事で、皆さんと飲食を共にし、語り合えるのを楽しみにしています。

齋藤 彦伍

旧制経済学部 昭和二八年卒業

会報の発行お祝い申し上げます。近況ですが直腸ガンの手術後の経過は主治医の先生のお話では術後二年目が大きな山、三年目が小さな山、五年を経過すれば殆ど再発の可能性がないとのこと少し安心しております。会の発展をお祈り致します。

志垣 明

法学部 昭和三四年卒業

卒業して五三年、光陰矢のごとしである。現在は千葉県支部の常任幹事、白門三四会の副会長、商議員、協議員として大学の発展に少しでも役立てばと思っている。毎年趣味の音楽で仲間と一緒にうたっている。

渥美 雅子

法学部 昭和三八年卒業

DV被害者支援のためのNPO法人を立ち上げ、ささやかな活動を始めて早一〇年。一方、講談好きの仲間が集って渥美講談塾を始めて一六年。こちらはアメリカ、ブラジル、中国など海外公演までやってしまふという厚顔無恥。

千村 文彦

理工学部 昭和四一年卒業

自然大好き自由人、第二の青春を築しんでいる私は、朝食前に農作業をし、そして気が向いたとき陶器作などをしてる。

小高 丑松

法学部 昭和三〇年卒業

大正末期生れの当年八八歳。老人病のいくつかはあるが、今のところはどうか生きています。本業の弁護士稼業は五年前にやめて、現在は有志と日本現近代史を研究している。支部集会の折には会員その他から有益な話を聞きたい。

宮武 孝吉

法学部 昭和三六年卒業

平成二二年『志津の史跡と名所』発行（二千部、完売・在庫無）。志津公民館や地元中学校の郷土講座で「志津の話」をしています。千葉県詩人クラブ所属、毎年『千葉県詩集』（年刊）に「詩」を発表しています。

後地 俊男

商学部 昭和二一年卒業

七九歳になりました。エイジシュートを目指して頑張っています。他仕事、県支部、母校関連活動にも精を出しています。

武田 將次郎

商学部 昭和四一年卒業

大震災以後千葉県内観光業は大きな痛手を被り、この秋にやっと九割がたもどってきた。まだ厳しい地域もある。秋に長女が結婚した。婿さんに入った男性はなんと中大卒業生。しかも音研の後輩。何かの縁があるのだろう。

柴田 泰二

経済学部 昭和三二年卒業
今年喜寿を迎えましたので、喜寿記念七七碗展を開催しました。歳に因んで抹茶茶碗七七碗の展示と、母校中央大学の合同句集「薫風」へ出詠した二〇年分の句を「薫風（抄）」として纏め、句集を配布贈呈しました。

山口 義夫

商学部 昭和二八年卒業
平成六年、北九州商工会議所からルネッサンス大使（現・北九州市ひまわり大使）を委嘱され、全国ふるさと大使連絡会議に参加し、現在代表として、ふるさと再生のために全国各地の大使との交流を深めております。

臼井 日出男

経済学部 昭和二六年卒業
平成二二年に衆議院を引退しましたが、各種団体の会長職等を結構致しており、忙しい日々が続いています。現在七四歳。七五才をめどに各役職を引き、家内とヨーロッパ旅行にでも行きたいと考えています。

山本 順一

理工学部 昭和五三年卒業
中大の千葉県支部会員になつてからずっと幽霊会員しております。しかし、幽霊会員を継続するのも多大なエネルギーが必要なのです（笑）。Facebookなどで活動状況が分かると催しへの参加の敷居が低くなると思います。

碓石 一彦

法学部 昭和三五年卒業
現在白門三五会の事務局長として同期の皆のため、お役に立ちたいと動いております。日頃は健康維持のために、地域のグラウンドゴルフクラブに妻と参加し、五〇人の仲間達と週二回、楽しくラウンドしています。

佐々木 勝彦

理工学部 昭和四四年卒業
今年茂原市居住四四年。故郷福岡と同様大切なこの地域への想いを胸に市愛唱歌創作発起人となり、市民の心に寄宿するデフレ、より解放されんが為、そして輝かしい未来の扉を切開かれんが為、を祈念し、奔走しております。

芦村 敏徳

経済学部 昭和四五年卒業
大学では人間を重視した水野朝夫教授の労働経済論を専攻。就職は、国民の生命・財産を守ることを使命とする東京消防庁に三四年勤務後、定年。定年後千葉県支部に加入して、副幹事長職を微力ながら手伝っています。

荒 孝一

法学部 昭和四一年卒業
創立六〇周年を迎えた南甲倶楽部の会員増強委員長を仰せつかりました。皆さんのご入会を心待ちにいたしております。昨年暮れに、NPO法人千葉県防災士会を立ち上げ、防災ボランティア活動などに参画しております。

吉田 政高

法学部 昭和五二年卒業
卒業すると、光陰矢の如く早い。千葉県庁を経て、今は千葉大学大学院で生命の水の講義をしたり、災害時の放射線と水について現地調査・研究をし、それらを基に市民講座などで市民と共に学ぶ場の構築に努めている。

蒲島 竜也

商学部 昭和六三年卒業
千葉に来て三年になります。一七年勤めた銀行を自己都合退職して知り合いのいない千葉で社会保険労務士事務所を開業しています。千葉支部活動は年三回程の参加ですが、お会いした時には気軽にお声をかけてください。



花島公園の桜（花見川区）

吉田 明

経済学部 昭和四〇年卒業

卒業して四七年。会社を起して、三七期が終り、一期も赤字決算無し。納税を通して社会貢献、嬉しく思います。J R稲毛駅前イオンスーパー駐車場入口前(株)明日香ホームです。仕事半分遊び半分の人生です。すぐコーヒーを出します。遊びに来てください。

野村 淳

法学部 昭和二八年卒業

母校職員定退後に、妻に委ねていた成田山表参道のささやかな家業に携わる傍ら、生れ育った地元商店街のために少しでも役立てばとの思いから地域振興・街づくり活動等に参画し、先年国交省より街並み景観優秀賞を受賞しました。

吉橋 重夫

法学部 昭和三八年卒業

定年以後二つの職場を経て六七歳で現役を引退しました。以後五年、公務員出身・高齢という異色の演歌歌手としてデビューして活動しています。今、フェイスブックで日本の「和」の良さを世界に発進PRしています。

猪俣 正栄

法学部 昭和三六年卒業

日航で管理、会計、内部監査を三七年、上海日航ホテルとJALホテルズで一五年。内外の出張のうち海外が四五カ国八〇都市を巡りました。今は、ボランティアで趣味の水彩画を二教室で楽しみながら教えています。

大上 正行

法学部 昭和二四年卒業

喜寿を過ぎると気力・体力の減衰を痛感しますが、地元NPOサークル活動の囲碁同好会会長を嘱望され後期高齢者男女五十余名を対象に脳トレに励む一方、北総エリアに潜在する白門同志諸公の発掘にも努めています。

松鶴 靖

法学部 昭和三二年卒業

中大を出て五五年になります。その間OB会には五つ所属しております。①中大千葉県支部②県庁白門会③中大三三会④司法試験受験団体の白門会⑤その派生団体である松戸白門会。在学中よりも中大にお世話になっています。

廣田 総

法学部 昭和五五年卒業

私も既に、人生の半分以上を生きて来たところですが、五五歳を過ぎた頃から新たなチャレンジで、ステージが上がって司会をしたり歌を披露する内職を始めました。思わぬところで見かける事等ありましたら御声援ください。

倉田 隆次

法学部 昭和四二年卒業

私は、日赤防災ボランティアの一員です。日赤の呼びかけに応じ、二年六月に食料・寝袋持参で三泊四日の救援活動に参加しました。四三会幹事有志二〇人で昨年七月に被災地訪問ツアーも行いました。東北を支援しましょう！

門山 宏哲

法学部 昭和六二年卒業

地元千葉で弁護士をしてまいりましたが、二年前に公募で自民党の支部長に就任し、この度の選挙で衆議院議員となることができました。中央大学学会の皆様には温かいご支援をいただき本当にありがとうございます。

安達 眞五

法学部 昭和三二年卒業

失われた十数年を取り戻すべく「アベノミクス」は大きな期待をになっていますが、何とか成功して欲しいものです。今年末には傘寿を迎えますが、まだまだ元気、皆さんと一緒に頑張りたい。



千葉寺

仲野 徹

商学部 昭和三四年卒業

仕事を辞し、晴耕雨眠の日々をと思ひ故郷神崎町に居を移しました。千葉県で人口がいちばん少ない町、成田空港から北北東に一四キロ利根川の右岸に位置する自然と緑が豊かな町で小生も田畑の農作業で元気に過ごしています。

福島 義宣

法学部 昭和四〇年卒業

年間二四〇回前後の合気道稽古を続けている。合気武道奥深さは計り知れない。稽古後の合気道談義や、他道場との交流会も楽しみのひとつ。あと何年間続けられるかわからないが、何処迄辿り着けるかが楽しみである。

赤崎 照夫

商学部 昭和二六年卒業

千葉北総グループを与りまして五五年卒の廣田稔さんに助けて戴き会を運営し、多くの先輩同窓の仲間と知り合い語り合う貴重な時間でした。でも何かが違う。県支部の集いに次の世代を担う原動力たる中堅層が出てこない。何故だと反省する昨今です。

日比野 臣三郎

経済学部(夜間部) 昭和二九年卒業

靖國神社崇敬奉賛会役員、神奈川県海交会前会長、中央大学学員会白門星友会前支部長その他多忙な日々を送っています。八九歳の今も健康です。母校中央大学および千葉県支部の発展と、吉田支部長はじめ会員各位のご健勝を祈念します。

佐々木 勝彦

理工学部 昭和四四年卒業

今年茂原市居住四四年。故郷福岡と同様大切なこの地域への想いを胸に市愛唱歌創作発起人となり、市民の心に寄宿するデフレより解放されんが為、そして輝かしい未来の扉を切開かれんが為、を祈念し、奔走しております。

中田 真人

法学部 昭和四二年卒業

金融関係の仕事を無事定年退職し、学校の仕事を手伝い始めて七年たちました。幸い健康的にはめぐまれ、好きなスキー、山歩き、音楽コンサートなどを中心に、節度のない好奇心を四方に発散してヒンシュクを買っています。

大島 剛

経済学部 昭和五四年卒業

防犯カメラ・防犯センサー・機械警備・常駐警備専門の㈱オーシマのトップとして生涯現役で頑張っております。

人見 隆之

法学部 平成五年卒業

私は、中小企業を支援するコンサルタントとして独立開業していますが、今日まで仕事を続けてこられたのは、中大という縁があったからです。縁に気づいて、その縁を活かすということは、大事なことでだと感じています。

並木 日呂忠

商学部 昭和四二年卒業

(福) 志津大山記念会を運営しております。デイサービスセンター三〇名、グループホーム二ユニット一八名の定員を三〇有余名の職員と共に地域の高齢者福祉に微力ながら貢献して行く所存です。ご支援よろしくお願い申し上げます。

村山 芳朗

法学部 昭和三五年卒業

昨年、五月初旬から三ヶ月ほど入院しなければならぬ病にかかりましたが、現在は毎日事務所に出て執務しております。でも、体力の回復はますますですが、とにかく気力の回復がうまくゆかず、イライラの毎日です。



小湊鉄道の無人駅



**中大OB(卒業生)による
学員会の始まり**

明治一八(一八八五)年
英吉利法律学校(設立認可)、
翌年第一回卒業生四名。

明治二一(一八八八)年一〇月
校友会結成集会

明治二二(一八八九)年九月
東京法学院・院友会と改称

明治三八(一九〇五)年
中央大学・学員会と改称

(出所 中央大学「タイムトラベル中大二二五」)

東京法学院院友会名簿(最古のもの)

卒業生、一九八六年〜一九九六年(一〇年間)
一五七八名
出身地は、東京一二七名、長野、千葉の順と
なっている。
(出所 明治二九(一八九六)年の名簿)

初期の活動状況

明治三六(一九〇三)年一月二十九日、千葉
師範学校講堂にて院友会千葉支部講話会を開催

した。講話会終了後、有志が千葉町の梅松別荘
に菊地学長一行を招請した。
参加者は、中央大学関係者が本部員一三名、
千葉支部員一六名のほか、千葉県知事、県会議
長、地裁部長、弁護士、陸軍大佐、検事正、中
学校長、検事、銀行支店長、師範学校長、警視
銀行頭取などであった。
(出所 法学新報一三卷一三号)

千葉支部・役員状況

明治三八(一九〇五)年
理事、清古平吉・杉山弥太郎 (二十年史による)

明治四四(一九一〇)年
理事、清古平吉ほか一名 (二十五年史による)

大正四(一九一五)年
理事、清古平吉、杉山弥太郎 (三十年史による)

昭和一〇(一九三五)年
清古平吉、杉山弥太郎 (七十年史による)

支部活動報告書

昭和六二(一九八七)年度 会員数三三〇〇名
設立年度、昭和三〇年、会費・無料

昭和六三(一九八八)年度 会員数三三〇〇名
設立年度、明治二九年、機関誌なし
(中央大学・支部活動報告書による)

(付記)

千葉支部の設立年度が、「支部活動報告書」
によると、昭和三〇年と明治二九年と異なっ
ている。その理由として、昭和三〇年は戦後になっ
て当会名誉顧問・水島廣雄先生(元そごう会長)
の尽力で復活した年度、明治二九年は東京法学
院の院友会名簿の発行年度である。
なお、その他の過去の支部活動は明らかでは
ない。

(文責 山口義夫)

[支部長]

氏名	任期	特記事項
大野 三郎	S28 ~ S29	
坂井 改造	S30 ~ S32	
笹田 登	S32 ~ S36, S38 ~ S39	
内山 誠一	S40.3 ~ S57.6.18	S50.10 支部長表彰
小川 徳次郎	S57.6.19 ~ H4.6.19	H5
鈴木 嘉重	H4.6.20 ~ H7.9.20	H7.9.20 物故
石村 起一	H7.6.18 ~ H13.11	H13.11 物故
齋藤 彦伍	H14.6.8 ~ H17.6.10	
吉田 卓	H17.6.11 ~	

[幹事長]

氏名	任期
中島 正弘	S48 ~
石村 起一	S56 ~
中島 正弘	S58 ~
関根 義昭	H4 ~
前島 一夫	H6.7 ~
後地 俊男	H17.6.11 ~
杉田 正俊	H20.6.7 ~
古川 昇	H23.6.11 ~
後地 俊男	H24.6.16 ~

※H13.11 ~ H14.6.7 支部長空位
(学員会本部の記録による) 千葉支部支部長・幹事長

協賛名刺広告・企業広告

会報発行にあたり会員有志から協賛広告をいただきました。ご協力ありがとうございました（掲載順不同をご了承ください）。

中央大学学生会千葉県支部

支部長

吉田 卓

〒263-0032 千葉市稲毛区稲毛台町2-7-8
TEL 043-243-5349

昭和11年 法学部卒

水島 廣雄

中央大学商議員
中央大学賛助員

昭和28年 旧制経済学部卒

齋藤 彦伍

〒299-3251 山武郡大網白里市大網320
TEL 0475-72-0364

両総観光株式会社 取締役会長

昭和26年 法学部卒

川島 宥

〒289-1512 山武市松尾町八田166
TEL 0479-82-132

昭和29年 経済学部卒

日比野 臣三郎

〒227-0627 横浜市青葉区柿の木台34-19
TEL / FAX 045-971-0627

昭和28年 法学部卒

野村 淳

〒286-0032 成田市上町553
TEL 0476-22-2149
携帯 090-8010-3251

旭建設株式会社 顧問

昭和31年 商学部卒

後地 俊男

〒260-8663 千葉市中央区市場町3番1号
TEL 043-225-7156 / FAX 043-224-2330
携帯 080-8434-7282

弁護士

昭和30年 法学部卒

小高 丑松

〒263-0016 千葉市稲毛区天台4-3-13
TEL / FAX 043-252-8547

昭和32年 商学部卒

中村 芳男

〒285-0811 佐倉市表町1-4-3
TEL 043-486-1328

昭和31年 経済学部卒

滝沢 健

〒260-0045 千葉市中央区弁天1-31-1-606
TEL / FAX 043-251-1656

中央大学学員会副会長
女性白門会特別顧問
中央大学名誉評議員
NPO 法人 日本モンゴル虹の会 理事長
千葉経済大学 名誉教授

藤本 幹子 昭和 32 年経済学部卒

有隣グループ
代表取締役社長

澤幡 仁 (昭和 32 年経済学部卒)

〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町 4 丁目 4 番 9 号
TEL 03-3241-2204 / FAX 03-3241-2830

一般社団法人 商品流通適正化機構
代表理事

昭和 33 年法学部卒

安達 眞五

〒272-0015 市川市鬼高 2-21-2-109
TEL 047-336-5816

昭和 33 年卒

嘉須利 敏夫

〒299-3233 大網白里市永田 1811-2
TEL 0475-72-0366

昭和 33 年経済学部卒

柴田 泰三

〒288-0031 銚子市前宿町 1161
TEL 0479-22-1192 / FAX 0479-22-1248

総合コンサルタント「カミヤ」代表

昭和 33 年法学部卒

松鶴 靖

〒267-0061 千葉市緑区土気町 1679-33
TEL / FAX 043-394-3859

昭和 34 年商学部卒

仲野 徹

〒289-0222 千葉県香取郡神崎町並木 666
TEL 0478-72-3760

志垣事務所 代表

昭和 34 年 法学部卒

志垣 明

〒270-0101 流山市東深井 905-19
TEL / FAX 04-7155-3523
Email shigaki_s@mub.biglobe.ne.jp

株式会社ケイアンドエム
代表取締役

前島 一夫 昭和 35 年経済学部卒

〒284-0023 四街道市みそら 4-11-4
TEL 043-432-6032

昭和 34 年法学部卒

勝田 武彦

〒278-0037 野田市野田 780-4
TEL 090-5574-6555
Email ntk@mxi.mesh.ne.jp

中央大学評議員

昭和 35 年法学部卒

大森 清司

〒278-0005 野田市宮崎 81-4 ドリームマークス 1015
TEL / FAX 04-7125-3718
Email kiyoshi-omori@m7.gyao.ne.jp

村山法律事務所

昭和 35 年法学部法律学科卒

村山 芳朗

自宅 〒264-0006 千葉市若葉区小倉台 7-16-4
TEL 043-232-8282

鳥切法律事務所

弁護士

鳥切 春雄 昭和 35 年法学部卒

〒263-0012 千葉県稲毛区萩台町 664-3
TEL 043-256-0161 / FAX 043-256-4486

ノザキ建工株式会社
取締役会長

野崎 卓次 昭和 35 年卒

〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港 223-3
TEL 043-243-0185

稲毛水彩画研究会 名誉会長・講師
花鳥水彩画研究会 名誉会長・講師
美術集団 創美会 委員

昭和 36 年法学部卒

猪俣 正栄

Shoei INOMATA

〒263-0043 千葉県稲毛区小仲台 1-4-1 アイ・プレイス稲毛 2-312
TEL / FAX 043-287-0940
Email inomata-s@asahi-net.email.ne.jp

白門三五会事務局長

昭和 35 年法学部卒

碓石 一彦

〒263-0001 千葉県稲毛区長沼原町 942-46
TEL / FAX 043-257-2511
Email ikariishi@peach.ocn.ne.jp

昭和 36 年 法学部卒

宮武 孝吉

〒285-0844 佐倉市上志津原 67
TEL 043-487-1680
Email ten-miya@msd.biglobe.ne.jp

北総白門会 会員諸兄のご入会をお待ちしております

会長 **赤崎 照夫** 昭和 36 年商学部卒

〒286-0011 成田市玉造 6 丁目 2-1
TEL 0476-28-4656

幹事長 **廣田 稔** 昭和 55 年法学部卒

〒285-0817 佐倉市大崎台 4 丁目 15-6
TEL 043-485-1575

渥美雅子法律事務所

弁護士

渥美 雅子 昭和 38 年法学部卒

〒260-0013 千葉県中央区中央 4 丁目 5-1
きぼーる 2 階
TEL 043-224-2624 / FAX 043-225-0182

昭和 36 年 経済学部卒

白井 日出男

〒262-0023 千葉県花見川区検見川町 3-315-17
TEL 043-271-4175

行政書士・社会保険労務士

椎名 薫 昭和 38 年法学部卒

〒260-0024 市川市稲荷木 3-9-2
TEL / FAX 047-379-8008

昭和 38 年商学部卒

税理士

山口 義夫

〒284-0024 四街道市旭ヶ丘 5-16-24
TEL / FAX 043-432-0130
Email yv6i9z@bma.biglobe.ne.jp

昭和 39 年 卒

本多 利夫

〒296-0011 鴨川市大里 6-11-9487-7
TEL 04-7092-2612

昭和 38 年法学部卒

吉橋 重夫

〒284-0044 四街道市和良比 313-7
TEL 043-432-4101 / FAX 043-420-8030
Email AND77364@nifty.com

東京白門ライオンズクラブ
会計

昭和 39 年 経済学部経済学科卒
境 捷彦

〒272-0805 市川市大野町 1-403-6
TEL / FAX 047-337-9010

昭和 39 年卒
小柳 晃

〒272-0034 市川市市川 3-35-8
TEL 047-326-918

昭和 40 年 経済学部卒
吉田 明

〒261-0012 千葉市美浜区磯辺 3-18-9
TEL 043-279-3952 / FAX 043-256-6446
Email akira@asuka-h.com

株式会社エヌ・シー
マイナスイオン発生の LED 照明灯

福島 義宣 昭和 40 年卒 (法-法)

〒153-0042 目黒区青葉台 3-5-41 エフェス 301
TEL 090-1407-1340
Email fukusan@cnc.jp

千葉市人事委員会委員
京成バラ会幹事

大古場 裕 昭和 40 年卒

〒264-0005 千葉市若葉区千城台 3-11-8
TEL 043-237-0104 / 携帯 090-6923-78371
Email 1aoyu_3_hiro@yahoo.co.jp

ホテル鴨川館 代表取締役

昭和 41 年 商学部卒
武田 將次郎

〒296-0043 千葉県鴨川市西町 1179
TEL 04-7093-4111 / FAX 04-7092-5335
ホームページ <http://www.kamogawakan.co.jp>

自然大好き自由人

昭和 41 年 理工学部卒
千村 文彦

〒297-0073 茂原市長尾 2333-22
TEL / FAX 0475-24-1502

TKC 全国会 会員 荒孝一税理士事務所 所長
中央大学南甲倶楽部 会員増強委員会 委員長

荒 孝一 昭和 41 年法学部卒

〒261-0001 千葉市美浜区幸町 1-3-8-406
TEL 090-3238-6760 / FAX 043-247-5525
Email bonjour@kk.ij4u.or.jp
提携企業 積水ハウス・大和ハウス工業

社会福祉法人 志津大山記念会 理事長

並木 日呂忠 昭和 42 年商学部卒

〒285-0846 佐倉市上志津 1109 番地 1
TEL 043-464-0777 / FAX 043-464-0888
Email h-namiki@ooyamakk.or.jp
ホームページ <http://www.ooyamakk.or.jp>

昭和 41 年法学部卒
大久保 芳一

〒285-0846 千葉市中央区千葉寺町 1235-12
TEL 090-8647-5018
Email oy-15@mvp.biglobe.ne.jp

学校法人市川学園 (市川中学校・高等学校)

昭和 42 年 法学部卒
中田 真人

〒266-0033 千葉市緑区おゆみ野南 2-32-6
TEL / FAX 043-292-4106
Email k08281961@yahoo.co.jp

佐倉市議会 議長

山口 文明 昭和 42 年理工学部卒

〒285-0005 佐倉市宮前 1-15-10
TEL 043-485-1161 / FAX 043-486-1000
事務所：〒285-0014 佐倉市栄町 19-5-202
Email bunmeisan@yahoo.co.jp

昭和 43 年卒
倉田 隆次

〒262-0016 千葉市花見川区西小中台 6-15-203
TEL / FAX 043-271-9774

昭和 42 年理工学部卒
竹内 功

〒272-0805 市川市大野町 4-2847
TEL 047-337-8608

芦村消防研究所 代表

昭和 45 年経済学部卒
芦村 敏徳

〒264-0002 千葉市若葉区千城台東 4-28-14
TEL / FAX 043-236-1859
Email qkftw462@YBB.ne.jp

昭和 44 年理工学部管理工学科卒

東洋ケミカル機工株式会社
社長 佐々木 勝彦

〒106-0032 東京都港区六本木 3-18-12
TEL 03-3583-6305 / FAX 03-3583-0808
Email sasaki@toyochemical.com

株式会社オーシマ
代表取締役

大島 剛 昭和 45 年経済学部卒

〒262-0032 千葉市花見川区幕張町 5-417-51
TEL / FAX 043-276-2036
Email t.ohshima@ohshima-cp.com

リコージャパン株式会社取締役

昭和 45 年 法学部卒
室 勝弘

〒270-0155 流山市宮園 2-14-8
TEL / FAX 04-7159-2435
Email kmuro@olive.ocn.ne.jp

昭和 46 年法学部卒
石井 茂隆

〒267-0051 千葉県千葉市緑区上大和田町 253
TEL / FAX 043-294-0081

昭和 45 年 3 月文学部卒

藤橋 陽子

昭和 52 年卒
原口 真彩子

〒264-0015 千葉市若葉区大宮台 2-14-11

昭和 51 年経済学部卒
愛場 政幸

〒262-0047 千葉市花見川区長作台 1-6-1
TEL 043-259-1744

千葉大学 大学院 医学研究院
非常勤講師

昭和 53 年法学部卒
吉田 政高

〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-21-18-608

昭和 53 年 理工学部卒

山本 順一

中央大学学員会 白門55会支部長
両総観光株式会社 代表取締役社長

昭和55年経済学部卒
川島 正博

〒289-1512 山武市松尾町八田166
TEL 0479-82-1321

株式会社 喜代村
代表取締役社長

昭和54年法学部卒
木村 清

〒104-0045
東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル6階
株式会社 喜代村
TEL 03-3545-2266 / FAX 03-3545-3338

衆議院議員

門山 宏哲 昭和62年法学部卒

門山総合法律事務所
〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-31 高嶋ビル
TEL 043-223-5585 / FAX 043-223-5586

昭和56年卒

廣野 観匡

〒288-0811 銚子市妙見町1465
TEL 0479-25-3175

船橋市議会議員

平成3年卒
中村 実

〒273-0031 船橋市西船3-8-28
TEL 047-433-4047

昭和63年商学部卒

蒲島 竜也

〒260-0854 千葉市中央区長洲1-3-9-505

平成6年卒

大久保 博史

〒260-0028 千葉市中央区新町20-9-1405
TEL 043-204-3280

I S Oマネジメント研究所

平成5年法学部卒

人見 隆之

〒279-0026 浦安市弁天1-21-8-204
TEL 047-355-6507 / FAX 047-355-6507
Email hitomi@iso-mi.com

共同物産株式会社

アパート・マンション／土地・建物／管理 仲介 売買

代表取締役 **吉田 卓**

東京都北区中里 2-1-10

TEL **03-3915-5300**

地元の 不動産 専門業者!!

①あなたと ②すてきな ③かぞくのために

あ す か
(株) 明 日 香 ホ ー ム

代表取締役 吉田 明 (昭和 40 年 経済学部卒)

千葉県知事免許 (10) 第5278号

千葉市稲毛区小仲台2-13-1 村田ビル1F

<http://www.asuka-h.com>

☎ 043-256-5661 FAX 043-256-6446

マンスリーマンション

JR総武線の各駅の近く。
中央区・美浜区・稲毛区・花見川区・他

ミスタービジネスのマンスリーマンションは
出張者、建て替え・リフォームの仮住まい、
受験生、長期旅行者などにお勧めします。

ミスタービジネス



マンスリーマンション

有隣

60th ANNIVERSARY

有隣グループ

有隣運送株式会社
青葉運輸株式会社
有隣商事株式会社
株式会社日本橋柴犬ハウス
有限会社ワイ・ティ・シー

有隣グループ

代表取締役社長

澤幡

仁 (昭和32年経済学部卒)

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4丁目4番9号 TEL 03-3241-2204 / FAX 03-3241-2830



K&M CO., LTD.

推薦の声

脳は、人間の行動の司令塔、脳のしわの数とか柔軟な脳の働きなど生きている限り脳の活性化は必要だ。オリーブオイルは脳の潤滑油、最高級品を選んでもったいないはずがない。PSILLAKIS、TERRA CRETA、すっかりファンになりました。

(東京大学名誉教授 養老 孟司)



オリーブオイルと健康、美容、医学等の関係は、古代から知られてきました。TERRA CRETA、PSYLLAKIS (エキストラバージンオイル)はクレタ島の最高級オリーブオイルです。

株式会社ケイアンドエム

代表取締役 前島 一夫

〒284-0023 千葉県四街道市みそら 4-11-5

Tel.043-433-8877 Fax.043-433-8876

ホームページからご注文できます。
<http://www.olive-queen.jp/>

平成25年4月発売

元国税職員 (マルサ) による

税務調査対策完全マニュアル 中央経済社

共著 内野正昭・山口義夫 定価 3,000円+税

中央大学学生会千葉県支部会計監事

税理士 山口 義夫 (昭和38年 商学部卒)

事務所 〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町7-13ストリアビル7階

TEL 03-6423-0410

FAX 03-6423-0413

E-メール yv6i9z@bma.biglobe.ne.jp

大間産・222kg

築地初セリ
三番本鮪落札!!

つきじ喜代村

さざんまい

SUSHIZANMAI



極上 本鮪

東京・神奈川・栃木・大阪
福岡・北海道

《全50店舗》

Tokyo

- 本店(★) ☎03-3541-1117
- 別館(★) ☎03-5148-3737
- 本陣 ☎03-5565-3636
- 奥の院 ☎03-3524-7252
- 新館 ☎03-6226-1166
- 廻る築地店 ☎03-5550-8010
- 本願寺横店 *改装休業中
- 築地駅前店 ☎03-3524-9833
- まぐろざんまい ☎03-5148-5414
- 廻る築地2号店 ☎03-6226-6900
- 匠 *改装休業中
- 銀座7丁目店 ☎03-3569-3288
- 匠 銀座6丁目店 ☎03-6255-4177
- 有楽町店(★) ☎03-3500-2201
- AKIBA店(★) ☎03-5298-4792
- 廻るAKIBA店 ☎03-5298-4798
- 六本木俳優座前店(★) ☎03-5772-1005
- 六本木アピル前店(★) ☎03-5771-2440
- 新橋店(★) ☎03-5537-8855
- 渋谷東口店(★) ☎03-5468-7339
- 東新宿店(★) ☎03-5155-6655
- 錦糸町店(★) ☎03-5625-6788
- 亀戸店 ☎03-5858-3888
- 深川店 ☎03-5620-7447
- 門前仲町店 ☎03-3630-8659
- 廻る木場店 ☎03-5857-2241
- 富岡店 ☎03-3643-5160
- 東陽町店 ☎03-5617-3020
- 浅草店 ☎03-3844-7790
- 上野店(★) ☎03-5807-6543
- 巢鴨店 ☎03-3915-2200
- 自由が丘店(★) ☎03-5731-3211

- 高円寺店 ☎03-5305-3383
- 渋谷東急本店前店(★) ☎03-5784-2820
- 銀座八官店(★) ☎03-6218-0127
- 浅草雷門店(★) ☎03-5826-1375
- 池袋東口店(★) ☎03-5956-5836
- 湯島店(★) ☎03-5812-0216
- 得得 赤羽店 ☎03-3598-3661
- さくら鮪 ☎03-3536-4333

Kanagawa

- 横浜中華街東門店(★) ☎045-680-5326
- 川崎店(★) ☎044-221-4701

Tochigi

- 宇都宮店(★) ☎028-600-3017

Osaka



- 道頓堀店(★) ☎06-6484-2280

Hokkaido

- 小樽店 ☎0134-23-3185
- すすきの店(★) ☎011-200-8631

Fukuoka



- 博多駅前店 ☎092-433-2840
- 天神店(★) ☎092-735-6789
- 福岡中洲店(★) ☎092-283-6781
- 福岡千早店 ☎092-674-1888

24時間営業(★)
年中無休(一部店舗を除く)



本鮪お得盛り **極上**
~~税別627円~~ → 税別**417円**



本鮪三貫にぎり **極上**
~~税別627円~~ → 税別**627円**



本鮪五貫にぎり **極上**
~~税別1,549円~~ → 税別**1,239円**



特選すしざんまい **厳選**
3000円税込**3150円**



La Scene Blanche
Pure White Wedding
ラ・セーヌブランシュ

思い描いていたウェディングが叶えられる場所

千葉市中央区新町 15-16

Email info@l-sb.jp

千葉駅徒歩3分

ウェディングのご相談は



0120-85-3390



サンセルモのウェディングは、東京・千葉に5会場



100年の時を超えたレトロモダンな結婚式場



代官山
鳳鳴館

代官山
鳳鳴館

Email info@homeikan.jp

東京都目黒区青葉台 2-2-5



0120-82-3390

東急トランセ 伊太利屋本社バス停より徒歩1分



貸切アットホームウェディング



manor house wedding
L' BRIGHT HOUSE

エル
ブライthouse

Email info@lbrighthouse.jp

東京都港区浜松町 1-28-6



03-5733-3390

JR山手・京浜東北線浜松町駅北口より徒歩1分、
都営浅草・大江戸線大門駅B4出口より徒歩30秒



海と空の青に包まれた絶景のロケーション

WEDDING
L'celmo AQUA21
Crystal Chapel
エルセルモ アクア21

エルセルモ
アクア21

Email info@lcelmo-aqua21.jp

木更津市富士見 3-1-1



0120-23-2211

木更津駅徒歩3分



中世ヨーロッパの気品と伝統が薫るホテルウェディング

HAMILTON
HAMILTON HOTEL KAZUSA
Classic Church
WEDDING

ハミルトン
ホテル上総

Email
bridal-front@hamiltonhotel.jp

君津市中野 4-6-28



0120-51-8365

君津駅徒歩1分

編集後記

ここに、大勢の皆さまのご協力により、中央大学学員千葉県支部の会報を創刊行することができました。誠にありがとうございます。

千葉県支部の最古の活動状況は、法学新報第一三巻第一三号（明治三六年十一月）に東京法学院大学の院友会千葉支部講話会（当時の千葉県知事も出席し千葉町師範学校講堂にて開催し、一般の聴衆は千人に達し、満員で入場制限となり、支部による懇親会は梅松別荘で開催との記事があります。

戦後の千葉支部は大野三郎、坂井改造、笹田登、内山誠一、小川徳次郎、鈴木嘉重、石村起一、斉藤彦伍の歴代支部長によって引継がれましたが、近年は、支部総会の参加者が減少し、百名に達しておりません。

そこで、新たな歴史の一ページとして、より会員相互の絆を確かめる目的で、吉田卓支部長のもとで、一昨年からは支部の会報創刊に向けて後地俊夫支部長兼幹事長・前島一夫支部長・愛場政幸事務局長らの支援のもとに支部役員一同が取り組んでまいりました。

この創刊号には中央大学からは足立直樹理事長・福原紀彦総長学長・久野修慈学員会会長のご祝辞を頂いておりますが、白眉は当支部の

活動に多大な貢献をなされた元そごうデパート社長の水島廣雄先生のインタビュー記事であり、百歳を超えた現在でも大変元気であり、中央大学学員会千葉県支部へのエールをいただきました。ぜひ、お読みいただきたいと存じます。

また、この創刊号に会報の広告により資金援助いただいた方々、寄稿され、手持ちの写真や絵画を提供された方々、編集・印刷でお世話になった中川順一社長（諏訪書房（株）ノラ・コミュニケーションズ）と、その連絡を担当した事務局の皆さんなど多くの関係者に多大な謝意を申し述べます。

長年の念願であった学員会千葉県支部の会報をようやく皆さまに提供することができました。この会報の制作に関して、支部の皆さまの寄稿文をそのまま掲載し、校正ミスがないように注意したつもりですが、遺漏があった場合には不慣れた編集部の責任ですので、なにとぞ、ご容赦いただきたいと思います。

今後も千葉支部の広報紙として会報を刊行する予定ですが、どなたかご協力頂ける会員がいらつしやいましたら、支部事務局までお申し出いただければ幸いです。

（編集長・山口義夫）

中央大学学員会千葉県支部会報 創刊号

発行日 2013年4月30日

編集人 中央大学学員会千葉県支部会報編集委員会 山口義夫

発行人 中央大学学員会千葉県支部 支部長 吉田 卓

発行所 中央大学学員会千葉県支部事務局

〒262-0047 千葉市花見川区長作台1-6-1 有限会社シンセイ内

制作協力 諏訪書房（株式会社ノラ・コミュニケーションズ）

内閣

中央大学
千葉県支部